

## 市民意識調査の集計概要

### 1. 調査の目的

この調査は、基本構想基本計画で定めた施策の成果指標を測定する手段の一つとして、市民の生活実態や活動状況及び市政に対する関心などを把握するとともに、今後、市民の皆さんとの協働によって市政運営やまちづくりなどの施策を進めるための基礎資料として活用するために実施しました。

### 2. 調査の設計

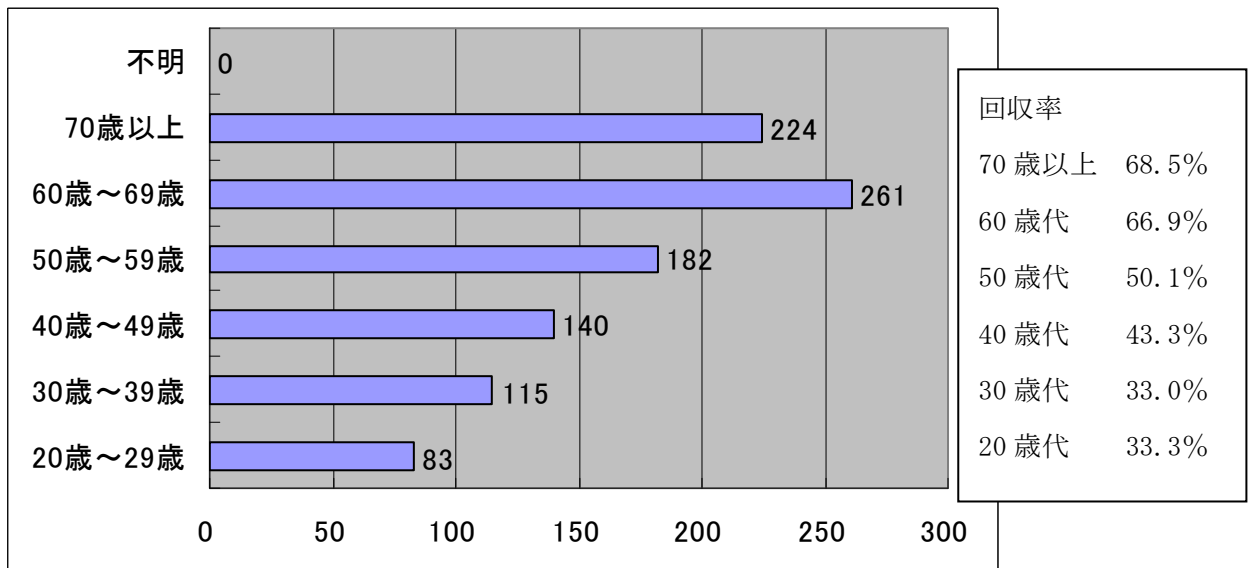
この調査は、次のとおり設計しました。

- (1) 調査対象 飯田市内在住の満 20 歳以上の男女
- (2) 調査対象者数 2,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から地区別、男女別、年齢別人口比率を調整し無作為抽出しました。
- (4) 調査時期 平成 22 年 2 月 26 日～ 3 月 12 日
- (5) 調査方法 郵送による

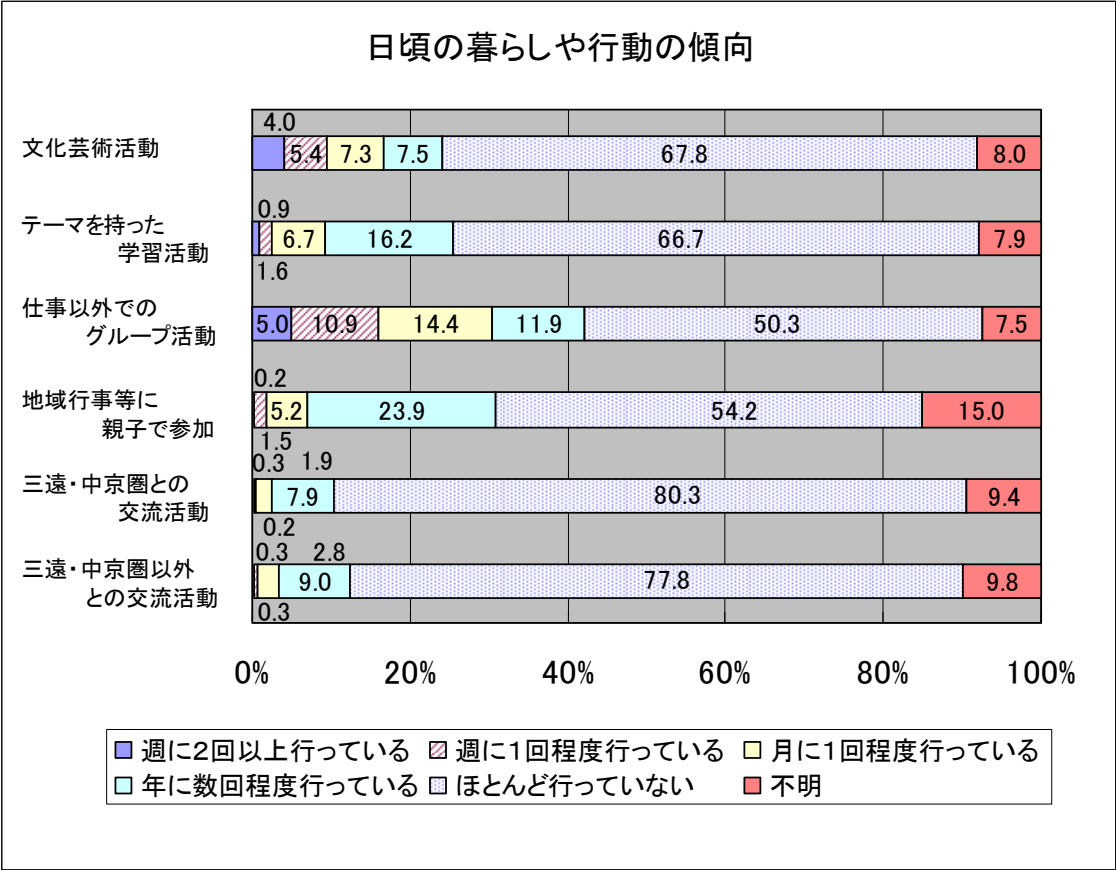
### 3. 回収結果

有効回収数 1,005 人（回収率 50.3%）  
内訳 男：446 人、回収率 44.4%  
女：546 人、回収率 54.3% ※ 性別不明：13 人

<年代別回収状況と回収率>



< 日頃の暮らしや行動について >

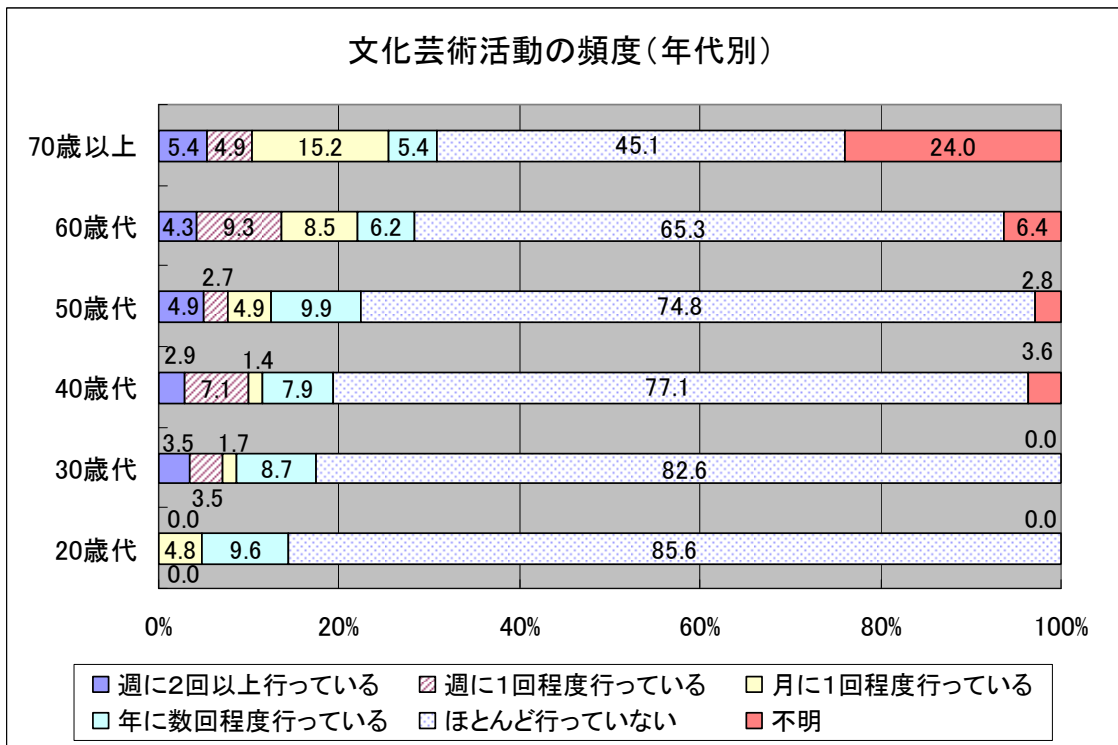
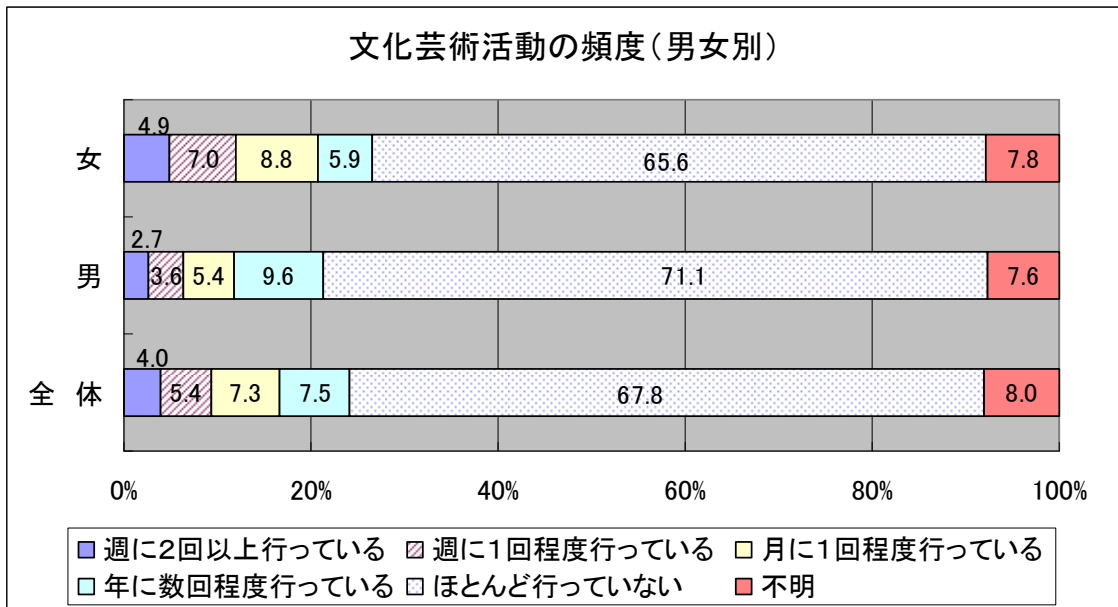


※以後、[ ]内は前年度の数値

問7-1 文化芸術の活動をどの程度行っていますか？

対象施策：文化芸術の振興  
 成果指標：文化芸術に無縁な生活を送っている人の割合  
 今回の調査結果：67.8%（ほとんど行っていない市民の割合）

- 例示として、楽器演奏、コーラス、詩吟、絵画、陶芸、演劇、人形劇、太鼓、民踊、書道、茶道、華道、写真をあげて質問してみたが、「ほとんど行っていない」（＝無縁な生活を送っている人）が67.8% [67.5%] で、年に数回以上活動をしている人の割合24.2% [25.2%] を大きく上回った。
- 男女別の状況を見ると、活動を行っている女性の割合が26.6% [29.1%] で、男性の21.3% [20.1%] を上回った。
- 「ほとんど行っていない」割合を年代別で見ると、20歳代から50歳代の若年層・壮年層では74.8%から85.6%、また60歳代でも65.3%という高い数値を示している。（なお、70歳代以上では45.1%）

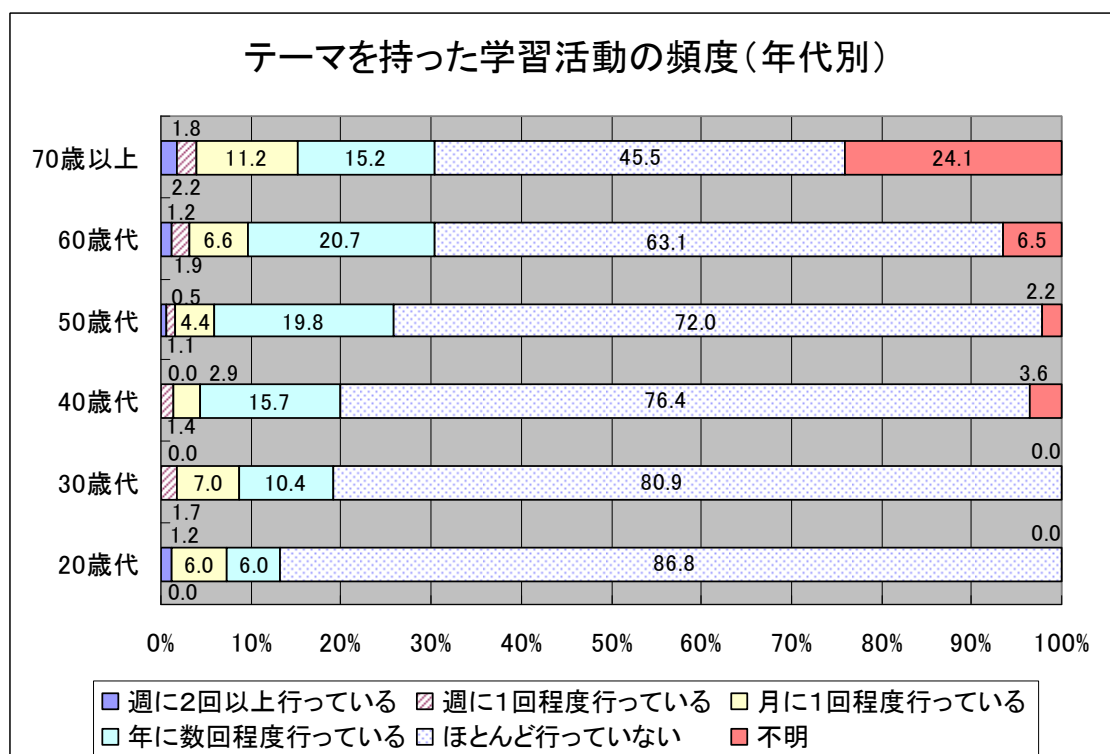
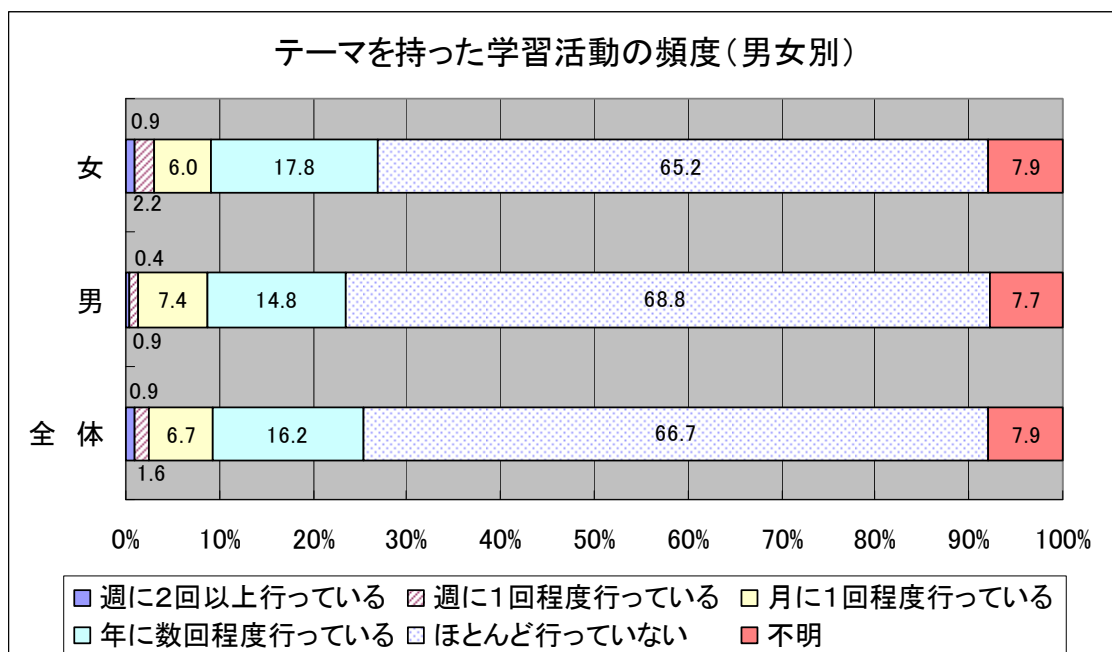


問7-2 日頃から学習のテーマを持って、学習活動にどの程度取り組んでいますか？

対象施策：学習交流活動の推進  
 成果指標：学習活動を行っている市民の割合  
 今回の調査結果：25.4% (年に数回程度以上行っている市民の割合)、(7-1の一部含むと36.6%)

- 全体として、テーマを持って学習活動に取り組んでいる割合は 25.4% [26.0%] で、ほぼ市民の4人に1人である。
- 男女別の状況を見ると、学習活動に取り組んでいる女性の割合は 26.9% [27.0%] で、男性の 23.5% [24.8%] よりも若干高くなっている。

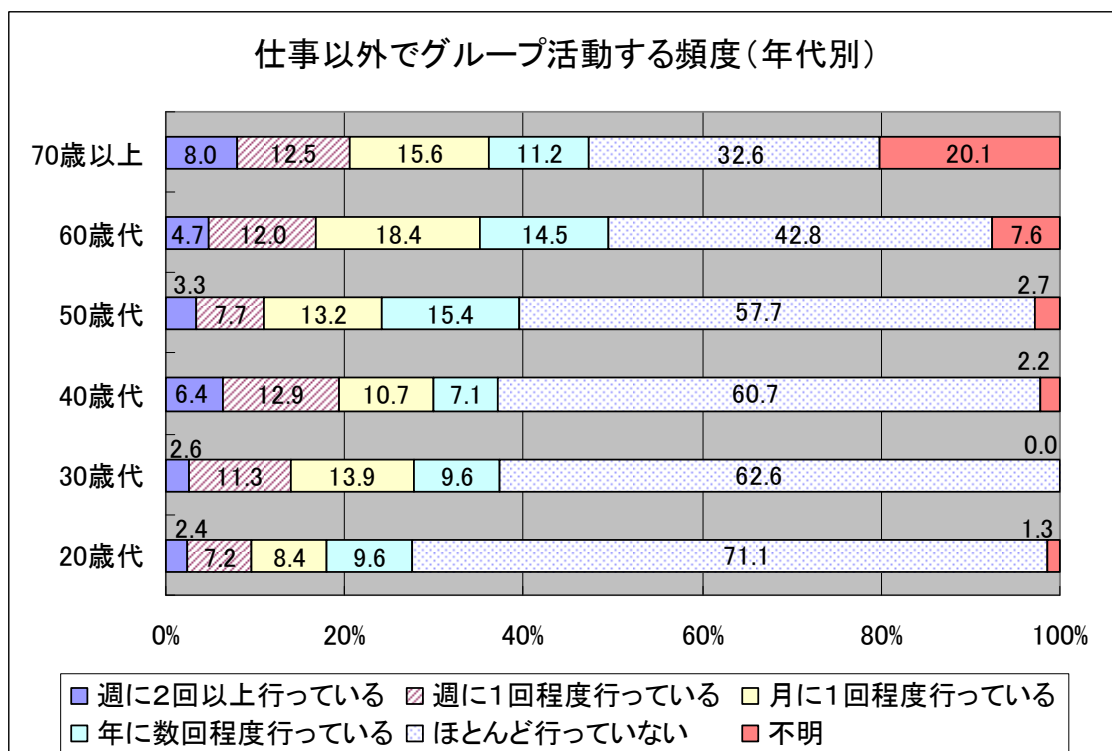
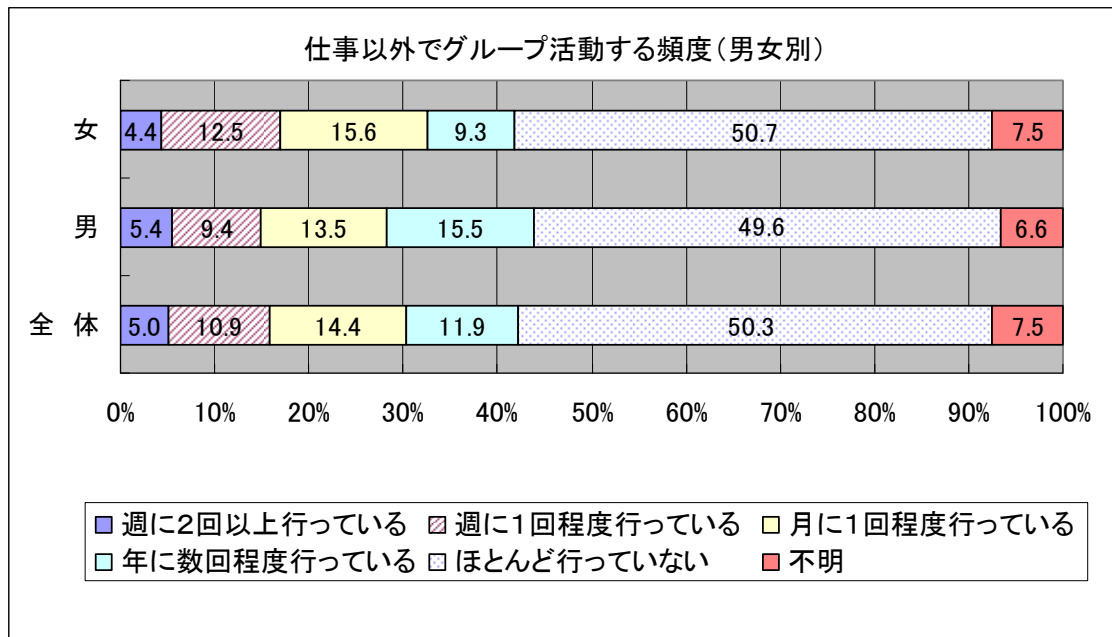
- 「ほとんど行っていない」割合を年代別で見ると、こちらも文化芸術活動と同様に20歳代から50歳代の若年層・壮年層が72.0%～86.8%の高い数値を示した。
  - ただ、ここで「ほとんど行っていない」または「不明」と答えた750人[775人]のうち111人[111人]、10.6%[10.6%]は、問7-1で文化芸術活動を「年に数回程度行っている」以上の回答をしており、広い意味で学習活動に関わっていると見られる。
- そこで、成果指標に関わる調査結果としては、25.4%+10.6%=36.6%[26.0%+10.6%=36.6%]と捉えてみた。



問7-3 仕事以外でグループに加入し、活動する機会がどの程度ありますか？

対象施策：学習交流活動の推進  
 成果指標：家族や職場以外で交流がある市民の割合  
 今回の調査結果：42.2%（年に数回程度以上行っている市民の割合）

- 趣味のサークル活動を含めて質問したところ、年に数回以上活動をしている人の割合は全体で42.2% [40.6%]、男女別で見ると、女性：41.8% [41.7%]、男性：43.8% [38.9%] でほとんど差がなかった。
- 活動をしている割合を年代別で見ると、20歳代～50歳代は平均以下である。

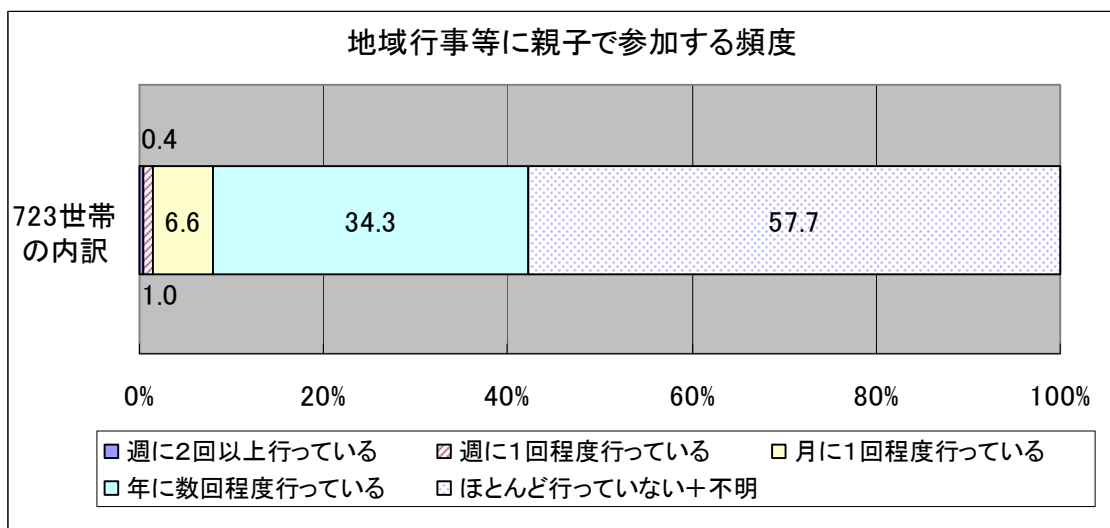


問7-4 地域の行事や活動に親子（小中学生まで）でどの程度参加していますか？

（対象：子どもを持つ723世帯）

対象施策：家庭教育の充実  
 成果指標：地域行事・地域活動に親子で参加している割合  
 今回の調査結果：42.3%（「年に数回程度以上参加している」割合）

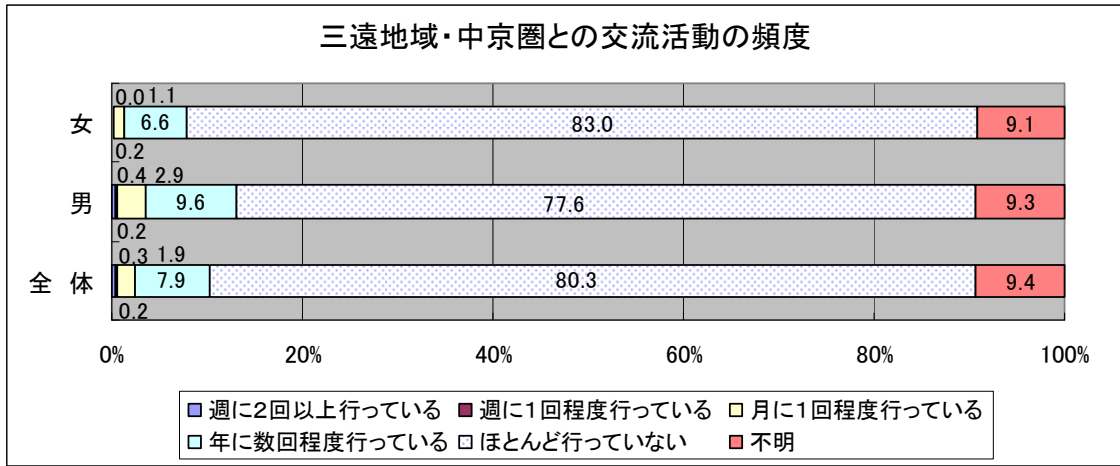
- 問6から、今回の調査回答者のうち子どもを持つ世帯数は723（二世帯世帯：446、三世帯世帯：277）となっている。そこで、この世帯数723を対象にして地域行事や地域活動に親子で参加している割合を求めたことにした。
- 回答状況を見ると、「週に2回以上行っている」：3人、「週に1回以上行っている」：7人、「月に1回程度行っている」：48人、「年に数回程度行っている」：248人となっており、「年に数回程度以上行っている」と答えた人はあわせて306人で42.3% [42.3%] である。



問7-5 三遠地域・中京圏の住民やグループとの交流活動をどの程度行っていますか？

対象施策：三遠南信・中京圏の連携促進  
 成果指標：都市間交流に参加している市民の割合  
 今回の調査結果：10.3%（年に数回程度以上行っている市民の割合）

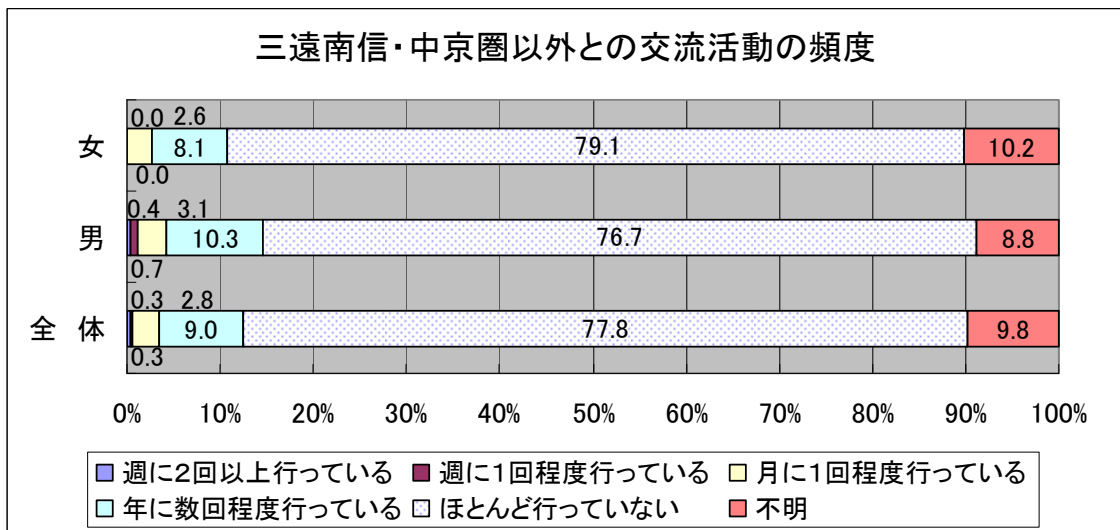
- 将来的に飯田市を含めた南信州地域とさらに深い関わりを持つと思われる地域との交流の状況を質問したが、現段階では交流している人の割合は全体 10.3% [8.8%]、女性：7.9% [7.2%]、男性：13.1% [11.0%] という数値を示した。
- 年代別に交流割合を見ると、20・40・50歳代が平均値を上回っている。



問7-6 三遠南信地域・中京圏を除く住民やグループとの交流活動をどの程度行っていますか？

対象施策：都市間交流の推進  
 成果指標：都市間交流に参加している市民の割合  
 今回の調査結果：12.4%（年に数回程度以上行っている市民の割合）

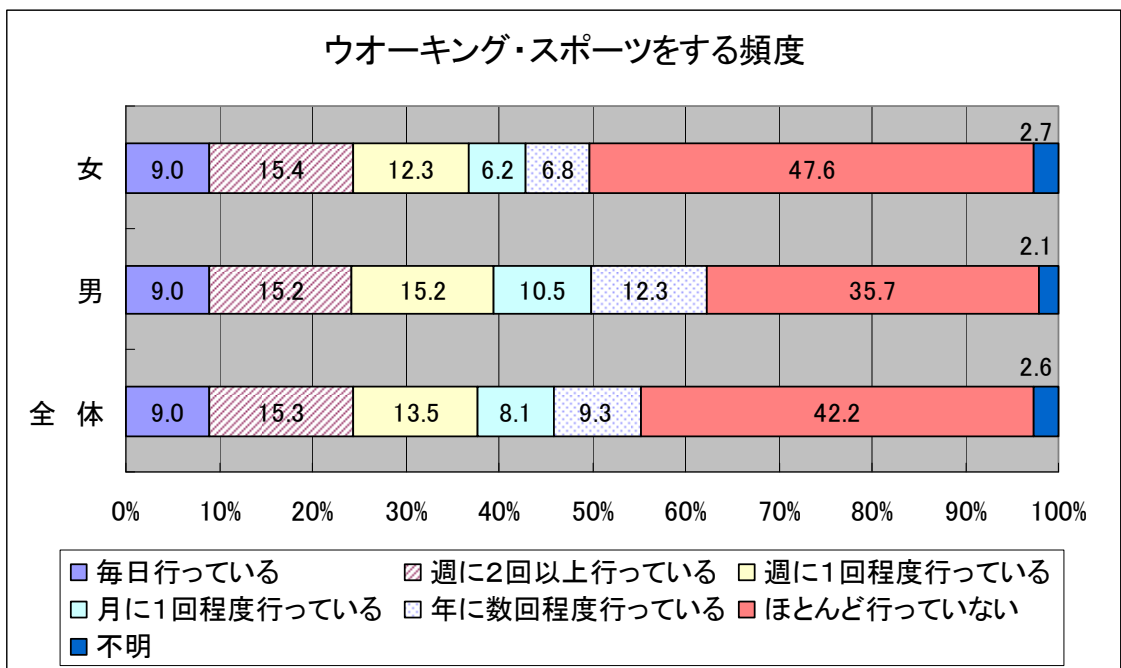
- 三遠南信地域・中京圏を除いた地域について見ると、交流している人の割合は、全体12.4% [11.1%]、女性：10.7% [8.3%]、男性：14.5% [14.9%] となっている。
- 年代別に交流割合を見ると、平均値を上回ったのは20・40・60歳代である。



問8 ウォーキングやスポーツをどの程度行っていますか？

対象施策：スポーツの振興  
 成果指標：ウォーキングやスポーツを行っている市民の割合  
 今回の調査結果：37.8%（週に1回以上行っている市民の割合）

- 国では「週に1回以上のスポーツ実施率 50%」を目標に掲げている。飯田市で見ると、ウォーキングやスポーツを週1回以上行う割合は全体で 37.8% [38.5%]、男女別で見ると女性：36.7% [38.8%]、男性：39.4% [38.4%] で、前回と反対に男性の方が若干高くなっている。
- 年代別に「週に1回以上行っている割合」を見ると、20歳代：32.5%、30歳代：21.8%、40歳代：30.8%、50歳代：34.0%、60歳代：48.3%、70歳以上：43.3% で、平均値以上は60・70歳代以上で、30歳代が最も低かった。



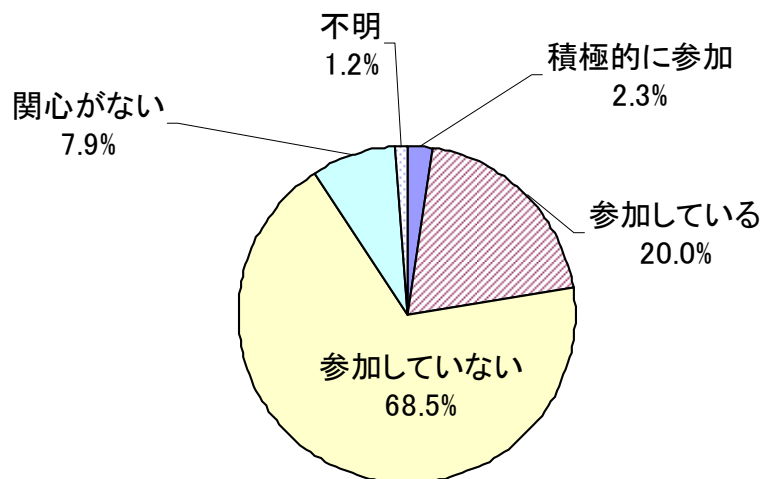
問9 環境に関する学習会や環境に関する知識を高めるような行事（講演会・研修会など）に関わったり参加したりしていますか？

対象施策：自然とのふれあいと環境学習の推進  
 成果指標：環境学習会に参加したことのある市民の割合  
 今回の調査結果：22.4%（「積極的に参加」＋「参加」の割合）

- 「積極的に参加している」と「参加している」を合わせた割合は、全体で 22.4% [20.7%]、男女別では、男性：23.8% [25.9%]、女性：21.0% [16.6%] となっている。
- 参加している状況を年代別に見ると、高い順に70歳以上：30.8%、60歳代：29.5%、50歳代：20.3%、40歳代：17.1%、30歳代：12.1%、20歳代：4.8%となっており、年代が下がるとともに参加割合が低下している傾向がうかがわれる。



## 環境に関する学習会等へ参加する頻度

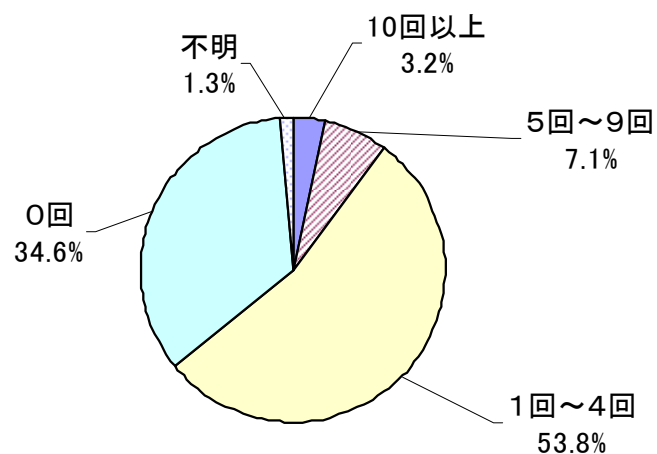


問10 昨年1年間に、市内外を問わず文化や芸術の鑑賞をどの位行いましたか？

今回の調査結果：64.1%（1回以上鑑賞を行った人の割合）

- 全体を見ると、1回以上鑑賞を行った人の割合は64.1% [66.2%] となっている。
- 1回以上鑑賞を行った人の男女別では、男性：58.3% [63.2%]、女性：69.7% [女性：68.7%] となっており、女性の方が男性より1割程高い数値を示した。

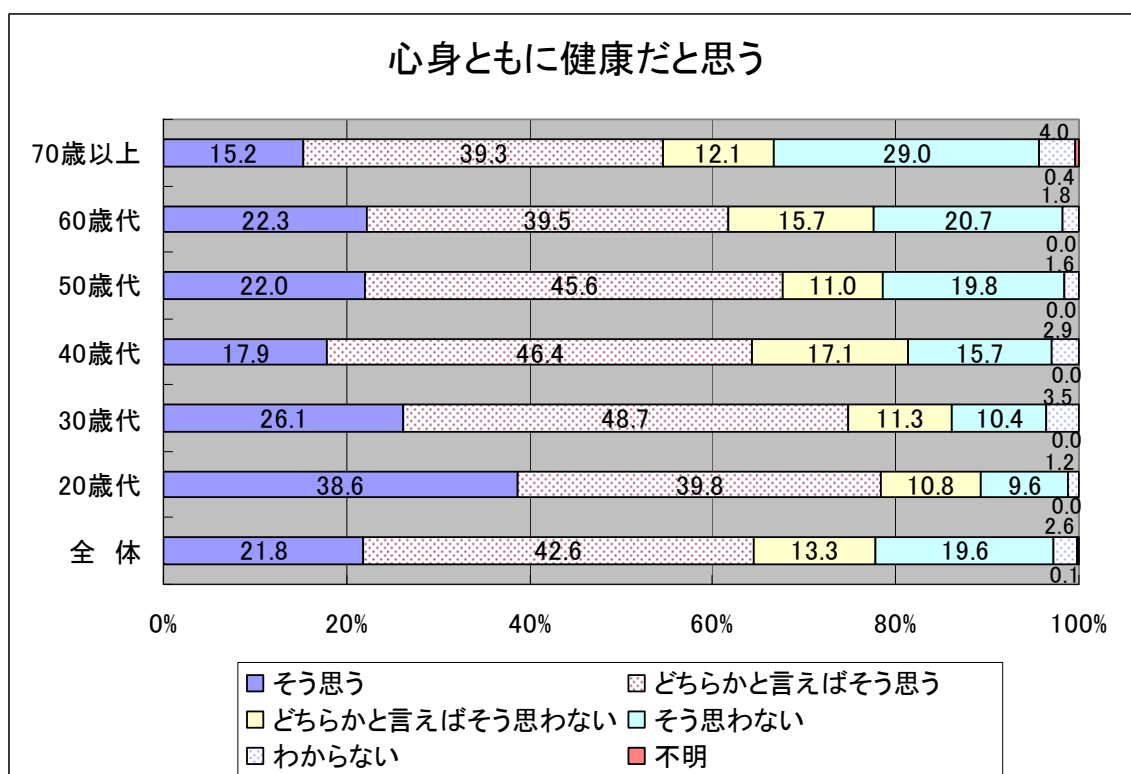
## 昨年1年間の文化芸術鑑賞の頻度



## 問 1 1 心身ともに健康であると思いますか？

対象施策：心と体の健康づくり  
 成果指標：心身ともに健康であると感じている市民の割合  
 今回の調査結果：64.4%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 健康状態について質問したところ、全体では、「そう思う」：21.8% [21.9%]、「どちらかと言えばそう思う」：42.6% [41.1%] で、合わせて64.4% [63.0%] は健康であると感じていることがわかる。一方、「どちらかと言えばそう思わない」が13.3% [16.4%]、「そう思わない」が19.6% [17.4%] もあり、全体の3人に1人は健康と感じていないことを示している。
- 健康と感じている人を男女別で見ると、女性：63.9% [62.3%]、男性：65.6% [63.4%] で、ごくわずかだが男性の方が上回っている。
- 健康と感じている人を年代別に見ると、47歳代と50歳代でわずかに逆転があるものの、ほぼ年代の若い順に高い数値となっている。

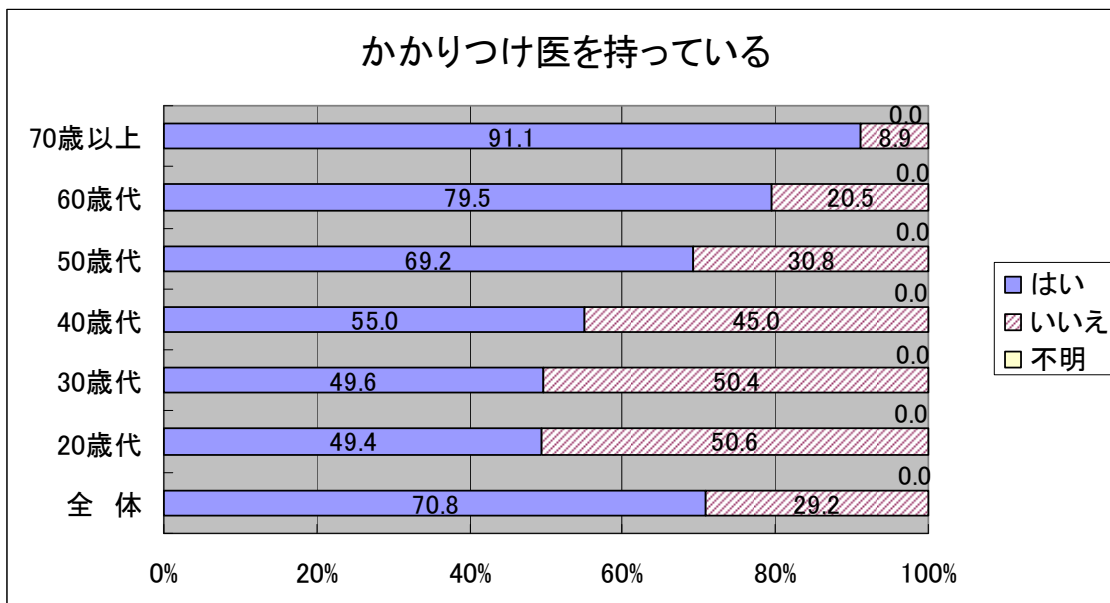


## 問 1 2 いつでも安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持っていますか？

対象施策：医療の充実  
 成果指標：かかりつけ医を持つ市民の割合  
 今回の調査結果：70.8%（「はい」と答えた市民の割合）

- いつでも安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持っているかとの質問に対して、全体で「はい」：70.8% [64.6%]、「いいえ」：29.2% [34.1%] で、7割以上の方がかかりつけ医を持っていると回答している。持っている人を男女別に見ると、女性：73.3% [66.3%]、男性：67.3% [62.1%] で、ほとんど差がないことが分かる。

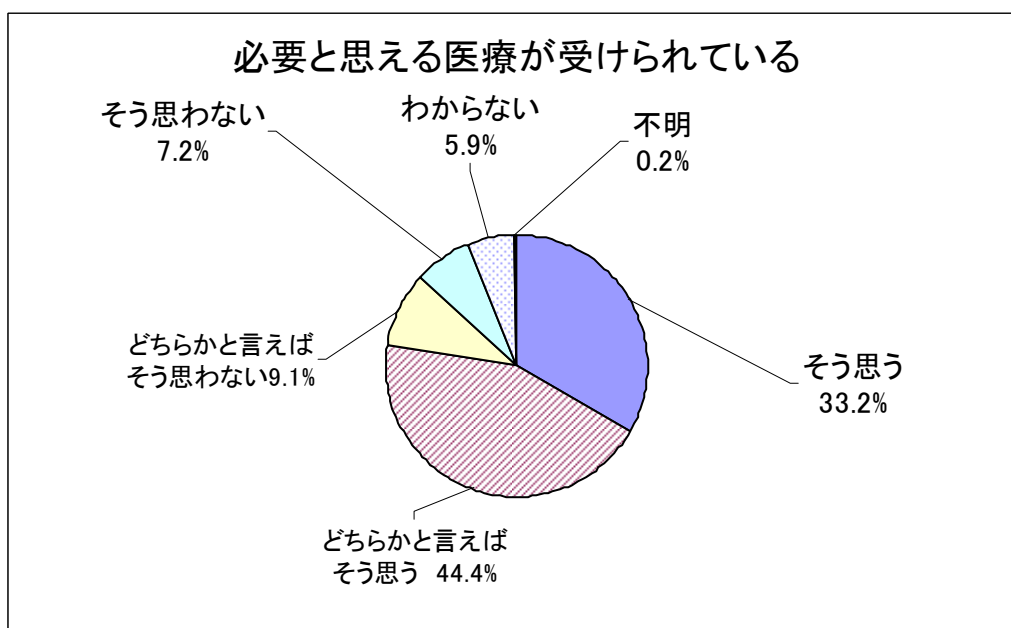
- かかりつけ医を持っている人を年代別に見ると、年代に応じて高くなっている。70歳以上では、9割以上の人がかかりつけ医を持っている状況である。



#### 問13 必要と思える医療が受けられていると思いますか？

対象施策：医療の充実  
 成果指標：必要な医療が受けられていると感じる市民の割合  
 今回の調査結果：77.6%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）

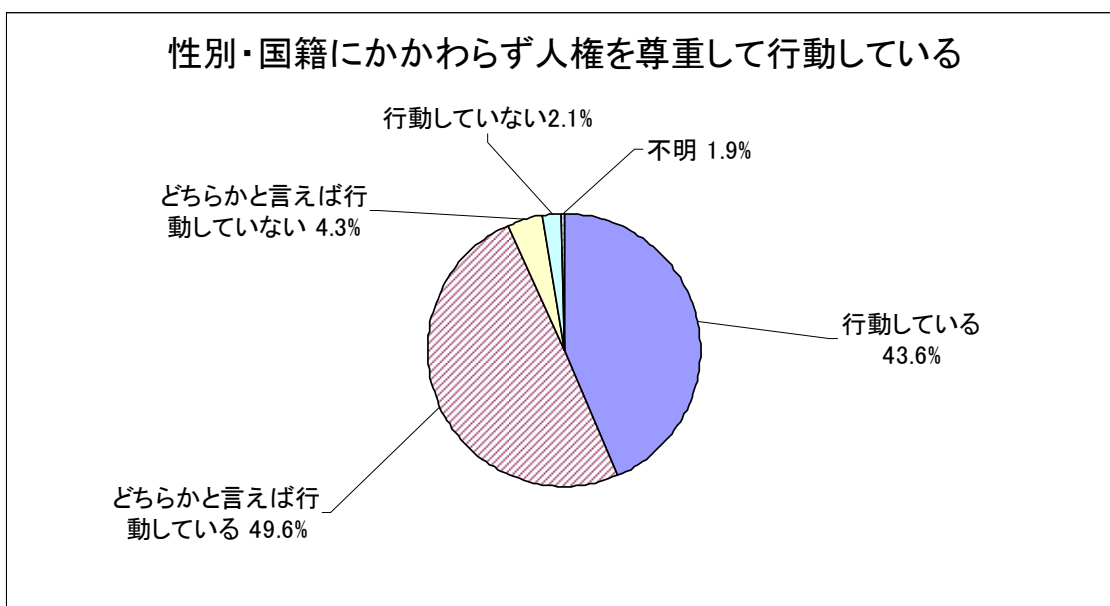
- 全体を見ると、「そう思う」:33.2% [33.0%]、「どちらかと言えばそう思う」:44.4% [43.1%] を合わせて 77.6% [76.1%] となり、4人に3人以上の割合で必要と思える医療が受けられていると感じていることを示している。
- 受けられていると感じている人を男女別で見ると、男性：80.0% [76.7%]、女性：75.5% [75.7%] となっており、特に男性で8割に達していることが注目される。
- 年代別で見ると、20歳代と30歳代で逆転は見られるものの、概ね年齢が高くなるほど必要な医療を受けることができていると感じていることがわかる。



問14 家庭や職場、地域の中で、性別・国籍にかかわらず相手の人権を尊重して行動していますか？

<p>対象施策：共に歩む社会づくりの推進</p> <p>成果指標：日常生活の中で人権を尊重して行動している人の割合</p> <p>今回の調査結果：43.6%（「行動している」と答えた割合）</p>
<p>対象施策：共に歩む社会づくりの推進</p> <p>成果指標：日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合</p> <p>今回の調査結果：93.2%（「行動している」+「どちらかと言えば行動している」の割合）</p>

- 全体では、「行動している」：43.6% [43.9%] と「どちらかと言えば行動している」：49.6% [46.0%] を合わせて93.2% [89.9%] という9割を超える非常に高い割合で、人権尊重意識を持って行動しているとの回答があった。
- 人権尊重意識を持って行動している人を男女別で見ると、女性：93.0% [90.5%]、男性：93.7% [89.6%] となっており、ほとんど差は見られない。



問15 地震・火災・豪雨等の災害に対して備えをしていますか？

<p>対象施策：災害対策の推進</p> <p>成果指標：市民が災害に備えている割合</p> <p>今回の調査結果：44.8%（下記①～③の3つの質問で「はい」と答えた割合の平均値）</p> <p style="text-align: center;">50.0%（下記①～④の4つの質問で「はい」と答えた割合の平均値）</p>
---

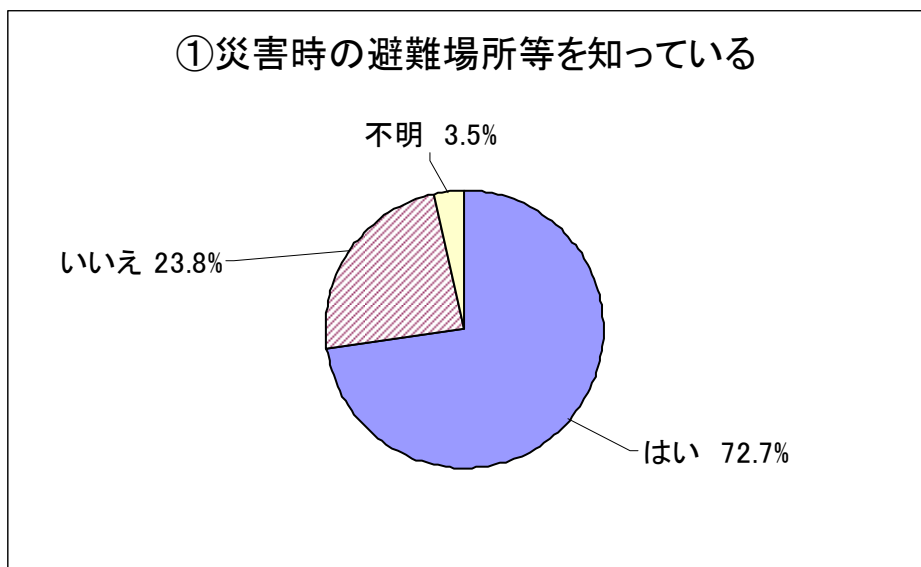
- ここでは、
- ① 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている
  - ② 3日分程度の食料や飲料水を準備している
  - ③ 家具の転倒防止策をしている
  - ④ 住宅用火災報知器を設置している

の4項目を調査した。前回まで④は「消火器を備えている」という項目であったが、消火器については既に相当普及が進んでいるため、「市民が災害に備えている割合」の把握対象からはずし、①～③の平均を成果指標としていた。その結果は、44.8% [43.0%] である。なお今回新たに追加した④も加味した①～④の平均は50.0%であった。

### 問15-① 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている

今回の調査結果：72.7%（「はい」と答えた割合）

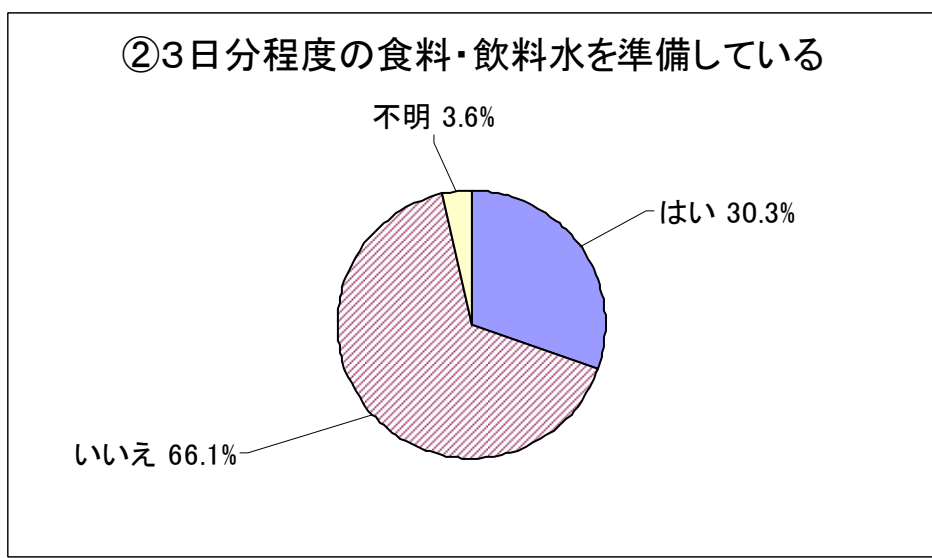
- 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている人は全体で72.7% [71.0%] に留まっており、ほぼ4人のうち3人が知っているという状況である。
- 知っている人の割合を男女別で見ると、男性：76.7% [74.1%]、女性：70.0% [68.6%] で、男性の方が上回っている。
- 知っている人の割合を年代別で見ると、50歳以上は各年代層ともに平均値以上（最高は60歳代の83.1%）を示したが、30歳代：60.9%、20歳代：44.6%と、若い年代では知っている人の割合が低くなっている。



### 問15-② 3日分程度の食料や飲料水を準備している

今回の調査結果：30.3%（「はい」と答えた割合）

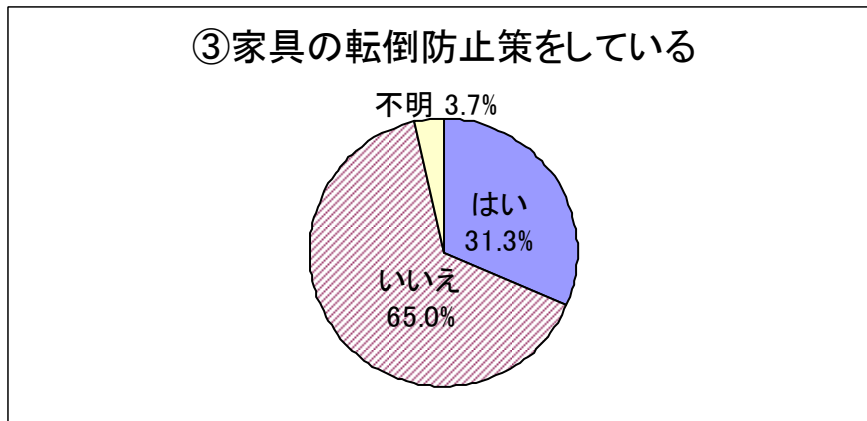
- 食料や飲料水を用意している人の割合は、全体で30.3% [30.1%] である。男性30.5% [28.8%]、女性30.4% [30.7%] と、いずれも低い。
- 準備している人の割合を年代別に見ると、年代が若くなるほど低下し、60歳代以上は平均値以上を示しているのに対して、50歳代以下は平均を下回っている。



### 問15-③ 家具の転倒防止策をしている

今回の調査結果：31.3%（「はい」と答えた割合）

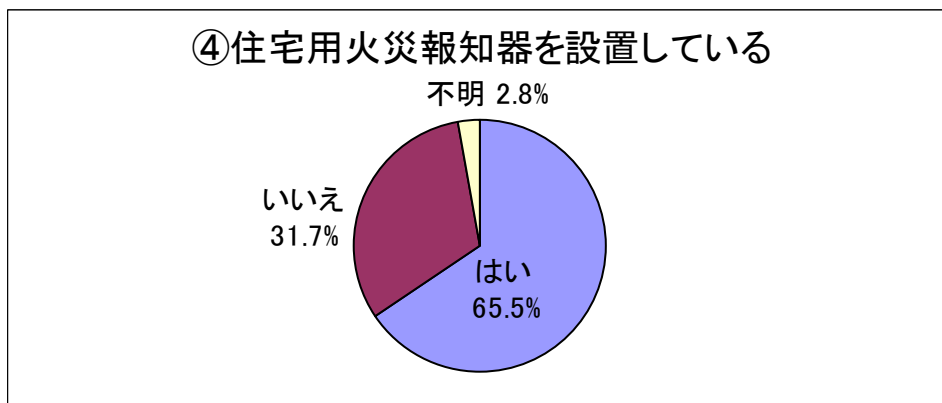
- 家具の転倒防止に備えている人の割合は全体で31.3% [27.9%]に留まっている。
- 備えている人の割合を男女別で見ると、男性：30.9% [29.7%]、女性：32.1% [26.1%]で、低いレベルとは言え女性の方が上回っている。
- 備えている人の割合を年代別で見ると、50歳代以上が平均値を上回っており、3歳代が最も低い数値を示している。



### 問15-④ 住宅用火災報知器を設置している

今回の調査結果：65.5%（「はい」と答えた割合）

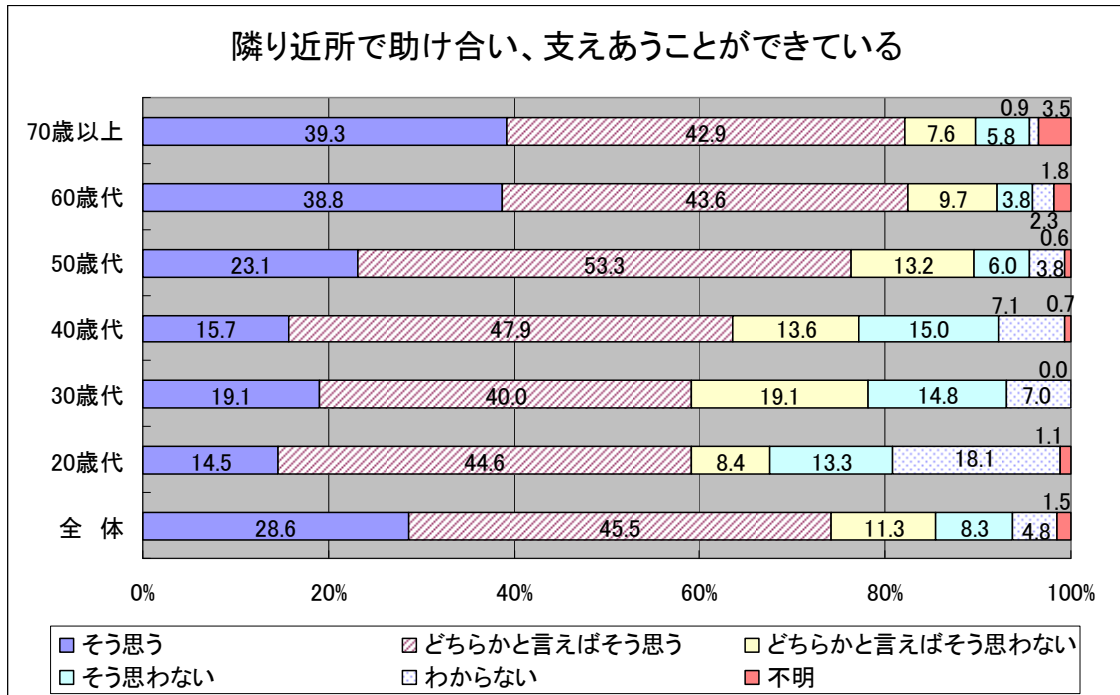
- 住宅用火災報知器を設置している人の割合は、全体で65.5%とほぼ3人に1人の割合を示した。男女別には、男性：63.9%、女性：67.2%で、女性の方が上回っている。
- 備えている人の割合を年代別で見ると、40・60・70歳代では平均を上回っているが、20・30・50歳代ではその割合が低くなっている。



### 問16 生活している中で、隣近所で助け合い、支え合っていると思いませんか？

対象施策：共に支えあう地域福祉の推進  
成果指標：近隣で支えあいができている市民の割合  
今回の調査結果：74.1%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）

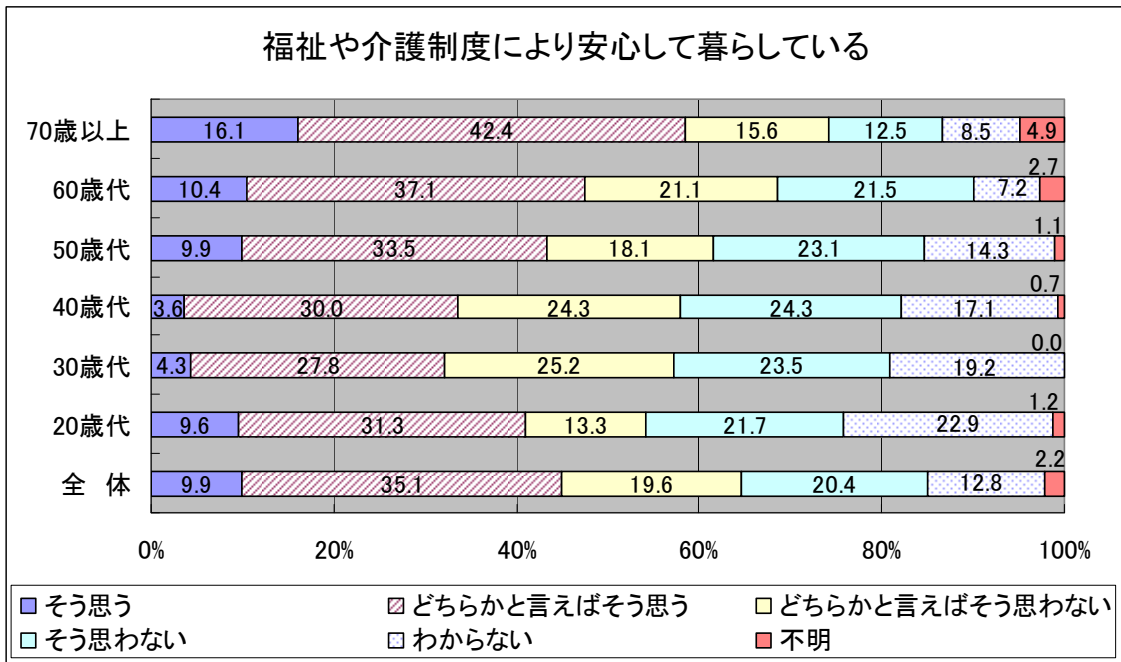
- 全体では、「そう思う」：28.6% [26.4%]、「どちらかと言えばそう思う」：45.5% [45.3%] で、隣近所で助け合い支え合うことができていると感じている人の割合は74.1% [71.7%] となっている。一方で、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は19.6% [21.6%] で、2割弱の人が「支えあいができていない」と感じている。
- 助け合いや支え合いができていると感じている男女別の割合を見ると、男性：73.1% [72.7%]、女性：74.9% [70.9%] で、若干男性の方が高くなっている。
- できていると感じている人の割合を年代別で見ると、50歳以上の年代が平均より高い。
- 地区別に見ると、南信濃：95.7%、龍江：89.2%、千代：85.6%、橋北：85.3%、座光寺：82.0%、下久堅：81.0%、山本：80.8%などが高い値を示した。



**問17 福祉や介護制度により、現在、安心して暮らしていると思いませんか？**

対象施策：高齢者福祉の推進  
 成果指標：安心して暮らせている高齢者の割合（65歳以上に限定）  
 今回の調査結果：全体 45.8%、65歳以上 53.1%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）

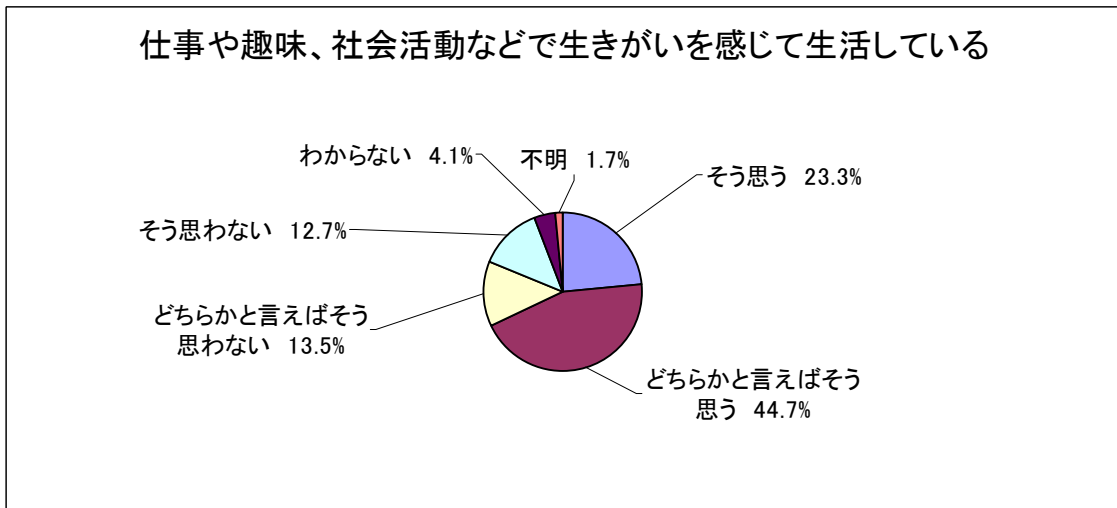
- 全体では、「そう思う」：9.9% [10.3%]、「どちらかと言えばそう思う」：35.1% [36.0%] で、安心して暮らせていると感じている人の割合は45.0% [46.3%] に留まる一方で、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は40.0% [39.2%] を示している。
- 安心して暮らせていると感じている人の割合を男女別で見ると、女性：43.6% [45.6%]、男性：47.3% [47.0%] で、男女の差は見られない。また、年代別では、20歳代が50歳代に続く以外は、年代が若くなるほど低下しており、60歳代、70歳以上では平均値より高い値を示した。
- 成果指標としては、安心して暮らせていると感じている高齢者（65歳以上）の割合を見るが、今回の調査では53.1% [58.0%]、352人 [338人] 中187人 [196人] である。



問 18 日頃から仕事や趣味、社会活動などで生きがいを感じて生活していると思いますか？

対象施策：高齢者福祉の推進  
 成果指標：いきいき暮らせている高齢者の割合（65歳以上に限定）  
 今回の調査結果：全体 68.0%、65歳以上 74.1%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 全体では、生きがいを感じて生活している人の割合は、「そう思う」：23.3% [22.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：44.7% [43.9%] で、全体では 68.0% [66.5%] となっており、生きがいを感じていない人の 26.2% [25.5%]（「そう思わない」：12.7% [13.0%]、「どちらかと言えばそう思わない」：13.5% [12.5%]）を大きく上回っている。
- 生きがいを感じている人の割合を男女別で見ると、男性：69.5% [65.6%]、女性：67.4% [67.1%]、年代別で見ると、20・60・70歳代が平均以上で、30歳代～50歳代が低い数値だった。
- 成果指標としては、いきいき暮らせていると感じている高齢者（65歳以上）の割合を見るが、今回の調査では 74.1% [73.4%]、352人 [338人] 中 261人 [248人] である。

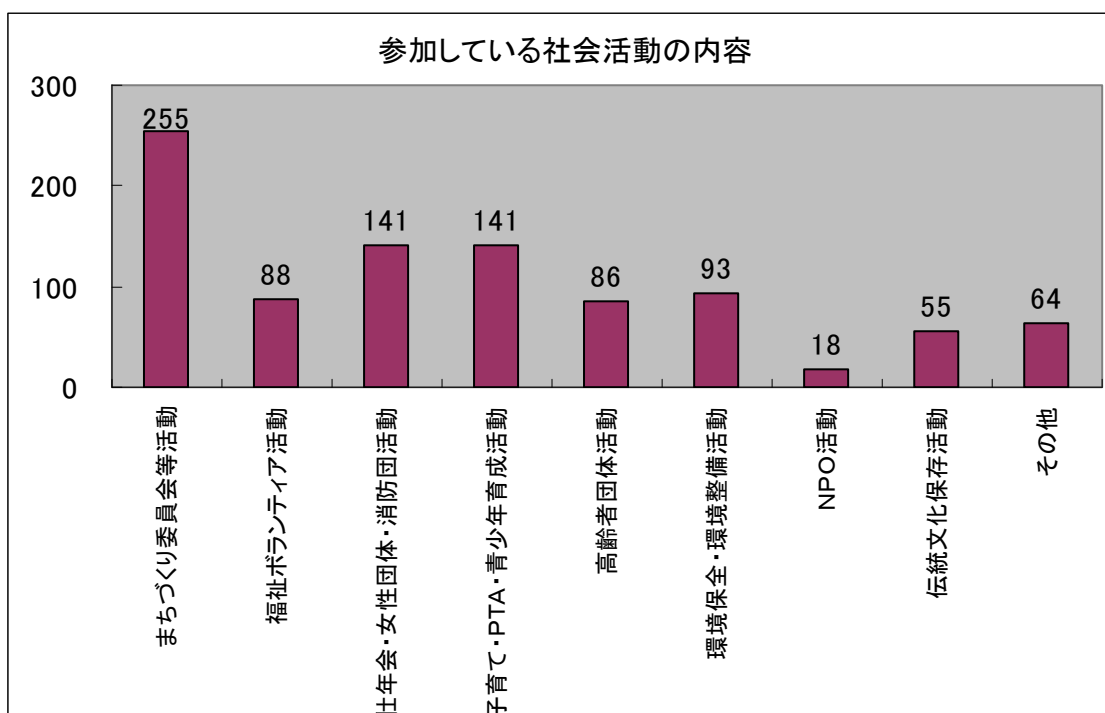




問 19 次のような社会活動に参加していますか？

対象施策：学習交流活動の推進 成果指標：社会活動に参画する市民の割合 今回の調査結果：60.3%（何らかの社会活動に参加している市民の割合）
対象施策：共に支えあう地域福祉の推進 成果指標：福祉ボランティア活動をしている市民の割合 今回の調査結果：8.8%（福祉ボランティア活動に参加している市民の割合）
対象施策：自立に向けた住民組織力の向上 成果指標：地域活動に参加している住民の割合 今回の調査結果：60.3%（何らかの社会活動に参加している市民の割合）

- どのような社会活動に参加しているのか、関わっているもの全てを回答してもらう設問だったが、全回答者 1,005 人 [1,047 人] のうち 606 人 [633 人]（率にして 60.3% [60.5%]）から具体的な回答があった。「壮年会・女性団体・消防団活動」（141 人 [120 人]）、「子育て・PTA・青少年育成活動」（1414 [153 人]）、「まちづくり委員会等活動」（255 人 [270 人]）への参加割合が高くなっている。
- 参加割合が高い主な社会活動を男女別で見ると、次のとおり。  
 男性では「まちづくり委員会等活動」：32.5% [32.4%]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：16.4% [12.2%]、「環境保全・環境整備活動」：13.0% [14.0%] 等。  
 女性では、「まちづくり委員会等活動」：20.1% [20.5%]、「子育て・PTA・青少年育成活動」：18.7% [18.6%]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：12.5% [10.8%]、「福祉ボランティア活動」：11.5% [11.2%] など。
- 「自治会活動」や「公民館活動」である「まちづくり委員会等活動」に関わっている人を年代別に見ると、40 歳代から 70 歳代では 25%から 35%程度であるのに対して、30 歳代では 16.5%程度、20 歳代では 7.2%と低い数値を示している。



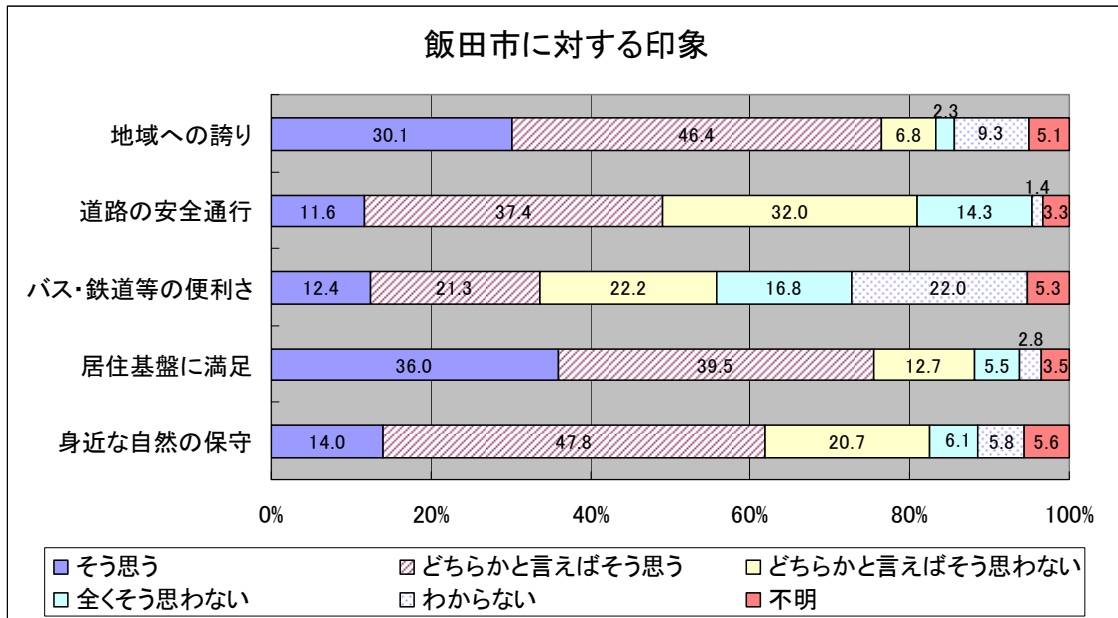
## < 飯田市に対する印象 >

### 問20-1 地域（飯田の自然・歴史・文化・風土など）を誇りに思っている

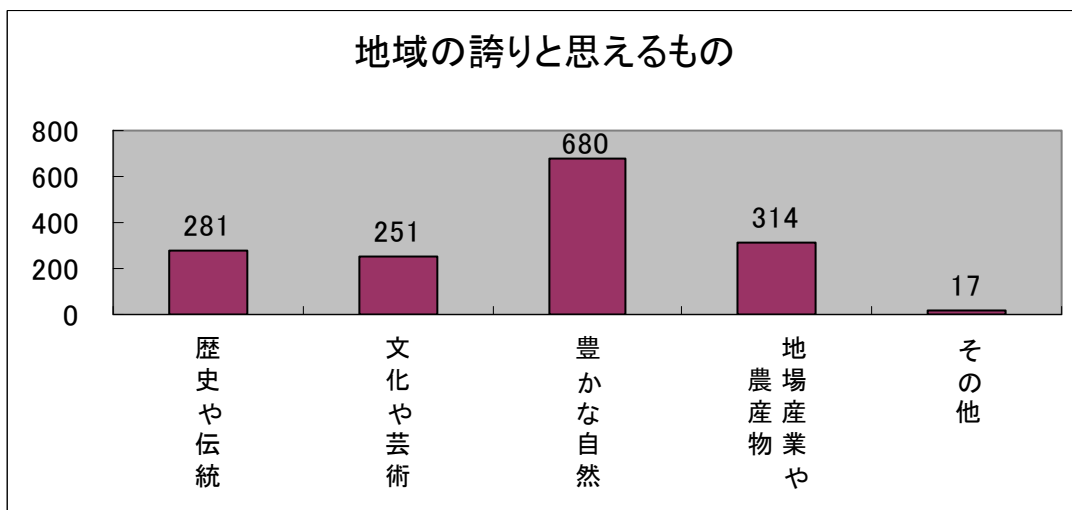
対象施策：ふるさと意識の醸成

成果指標：ふるさとを誇りに思っている市民の割合

今回の調査結果：76.5%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）



- 全体で見ると、「そう思う」:30.1% [28.7%]、「どちらかと言えばそう思う」:46.4% [45.0%] で、合わせて76.5% [73.7%] は誇りに思っていることが伺われる。
- 誇りに思っている人の男女別の状況を見ると、男性:75.6% [72.9%]、女性:78.1% [74.4%] で、ほとんど差は見られない。
- 誇りに思っている人を年代別で見ると、20歳代以外は70%を越える高い数値を示している。
- 地域の誇りと思えるものを尋ねた結果（複数回答可）は、「豊かな自然」:680人 [703人] (67.7% [67.1%])、「地場産業や農産物」:314人 [340人] (31.2% [32.5%])、「歴史や伝統」:281人 [276人] (28.0% [26.4%])、「文化や芸術」:251人 [275人] (25.0% [26.3%]) という結果だった。



## 問20-2 普段使っている道路（歩道を含む）は、安全に通行できると思う

対象施策：交通機関と道路の充実（道路）

成果指標：市内の移動に不便を感じる市民の割合

今回の調査結果：46.3%（「どちらかと言えばそう思わない」+「全くそう思わない」の割合）

- 全体では、「そう思う」：11.6% [11.1%]、「どちらかと言えばそう思う」：37.4% [35.0%] で、安全に通行できると考えている人の割合は 49.0% [46.1%] に留まっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」：32.0% [33.0%]、「全くそう思わない」：14.3% [13.7%] で、合わせると 46.3% [46.7%] の人が安全に通行できないと感じていることがうかがえる。
- 居住地区別の状況を見ると、次のとおりである。  
安全に通行できると感じている人の割合が高い地区は、①橋北：88.2%、②川路：85.0%、③上久堅：84.6%、④龍江：82.1%、⑤松尾：81.8%、⑥竜丘：81.6% などである。  
逆に、安全に通行できないと感じている人の割合が高い地区は、①上村：28.6%、②三穂：20.0%、③上郷：12.3%、④丸山：11.7%、⑤伊賀良：10.9%、⑥龍江：10.7% などである。

## 問20-3 市内のバスや鉄道、乗合タクシーは便利だと思う

対象施策：交通機関と道路の充実（交通機関）

成果指標：市内の移動に不便を感じる市民の割合

今回の調査結果：39.0%（「どちらかと言えばそう思わない」+「全くそう思わない」の割合）

- 全体では、「そう思う」：12.4% [10.1%]、「どちらかと言えばそう思う」：21.3% [18.5%] で、便利だと思う人の割合は 33.7% [28.6%] で、「どちらかと言えばそう思わない」：22.2% [23.0%]、「全くそう思わない」：16.8% [19.1%] で、不便を感じる人の割合が 39.0% [42.1%] で、昨年に比し改善してきている。
- 男女別では、男性で便利だと思う人の割合は 34.6%、不便を感じる人の割合が 40.5%、女性では便利だと思う人の割合は 33.3%、不便を感じる人の割合が 37.6% である。また年代別で見ると、便利だと思っている割合は、70歳以上：45.1%、60歳代：36.0%、50歳代：36.2%、40歳代：27.8%、30歳代：21.7%、20歳代：16.8%となっている。

## 問20-4 住んでいる地域の居住基盤に満足している

対象施策：居住基盤の向上

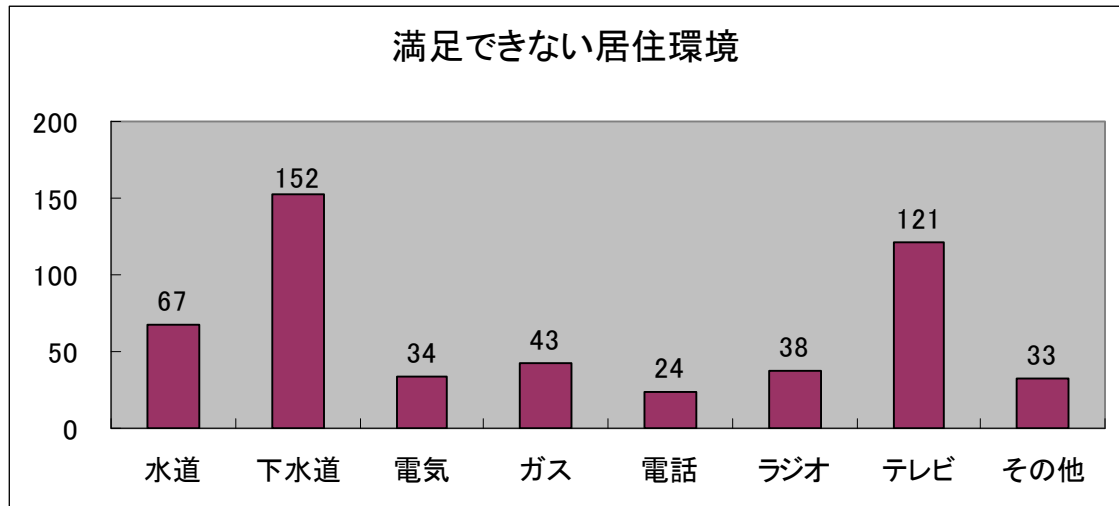
成果指標：居住基盤の満足度

今回の調査結果：75.5%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 居住基盤とは、水道、下水道、電気、ガス、電話、TVなどを対象としている。
- 全体では、「そう思う」：36.0% [36.1%]、「どちらかと言えばそう思う」：39.5% [39.4%] で、満足している人の割合は 75.5% [75.5%] で、「どちらかと言えばそう思わない」：12.7% [12.8%] と「全くそう思わない」：5.5% [5.3%] を合わ

せた 18.2% [18.1%] を大きく上回っている。

- 男女別では、男性で満足している人の割合は 77.1% でそうでない人が 17.8%、女性で満足している人の割合は 74.9% でそうでない人が 18.3% である。  
満足している人の割合を年代別で見ると、50 歳代以上が平均を上回っているが、40 歳代以下は平均より低く、特に 20 歳代は 10 ポイント以上も低くなっている。
- 満足できない居住基盤としてあげられたものは、多い順次のとおり。  
①下水道：152 人 (15.1%)、②TV：121 人 (12.0%)、③水道：67 人 (6.7%)、  
④ガス：43 人 (4.3%)、⑤ラジオ：38 人 (3.8%)、⑥電気：34 人 (3.4%)、  
⑦電話：24 人 (2.4%)



#### 問 20-5 身近な自然が守られていると思う

対象施策：身近な自然と生活環境の改善

成果指標：身近な自然は守られていると感じる市民の割合

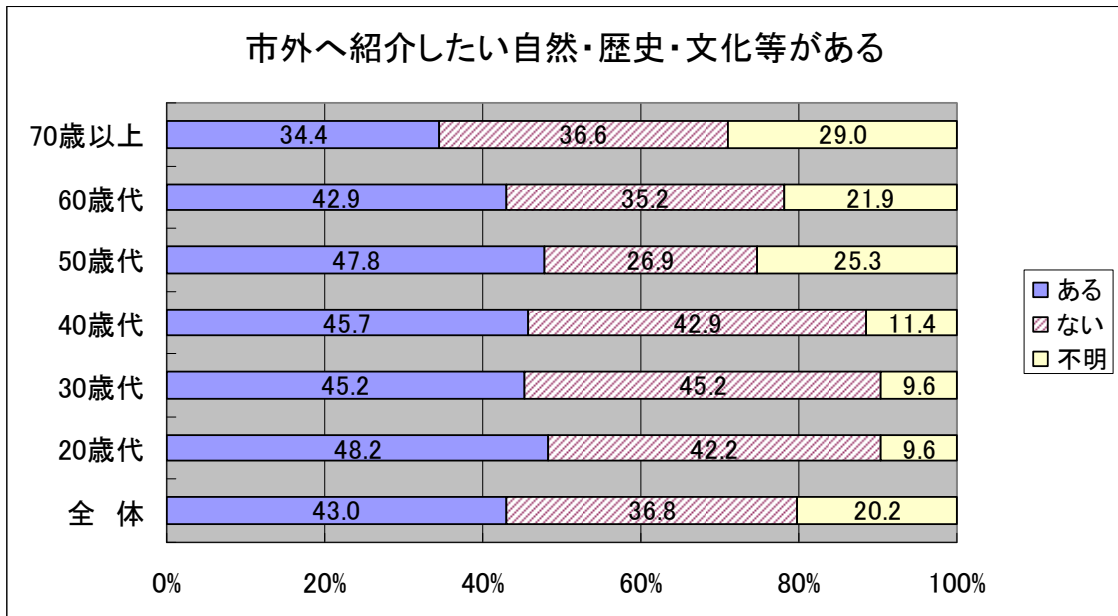
今回の調査結果：61.8%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 全体では、「そう思う」：14.0% [14.3%]、「どちらかと言えばそう思う」：47.8% [46.4%] で、合わせて 61.8% [60.7%] の人は身近な自然が守られていると思っている。一方で、「どちらかと言えばそう思わない」：20.7% [22.2%] と「全くそう思わない」：6.1% [6.2%] を合わせた 26.8% の人は、自然が守られていないと受け止めている。
- 「守られている」が 50～60% 程度、「守られていない」が 20～30% という状況は、男女別で見ても、年代別で見ても、多少のバラツキはあるものの概ね一定している。

#### 問 21 市内の自然・歴史・文化（財）などの中で、市外の人に紹介したいもの（自慢したいもの、観光等で訪ねてもらいたいところ）がありますか？

今回の調査結果：43.0%（「ある」と答えた市民の割合）

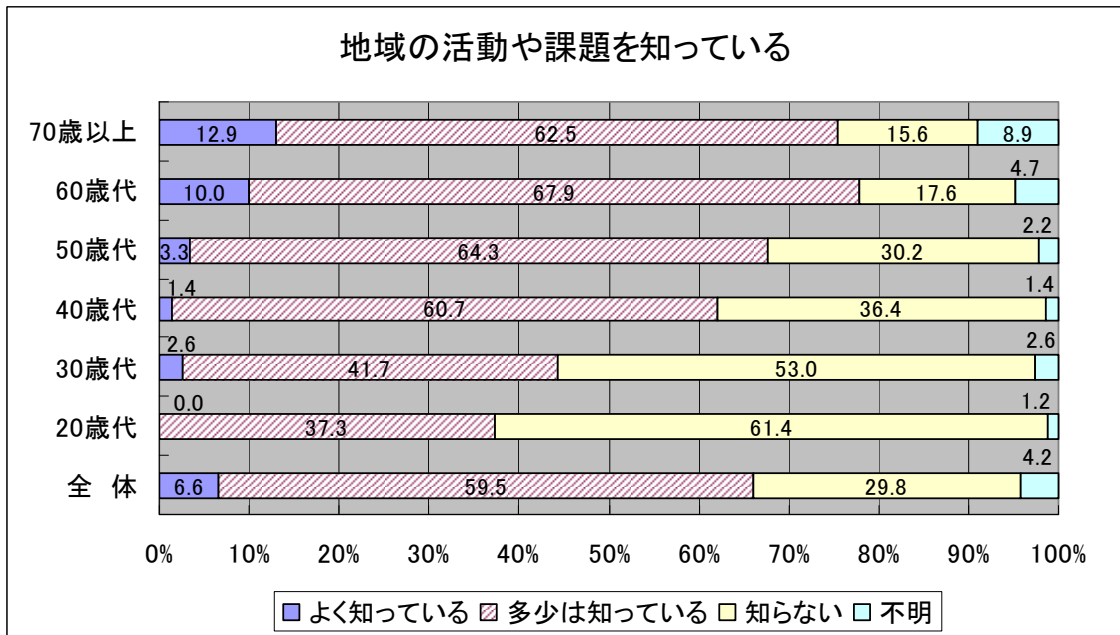
- 市外の人に紹介したいものが「ある」か「ない」かの二者択一で質問したところ、全体では「ある」：43.0% [44.6%]、「ない」：36.8% [37.0%] で、「ある」が若干上回ったが、記入のないものも28.2%あった。
- 男女別では、男性で「ある」：41.9%、「ない」：42.4%、女性で「ある」：44.5%、「ない」：32.4%である。年代別で見ると、30歳代を除く全ての世代で「ある」が「なし」を上回っている。（30歳代は同じ数値を示している。）



**問22 住んでいる地域で行っている活動の内容や課題となっていることを知っていますか？**

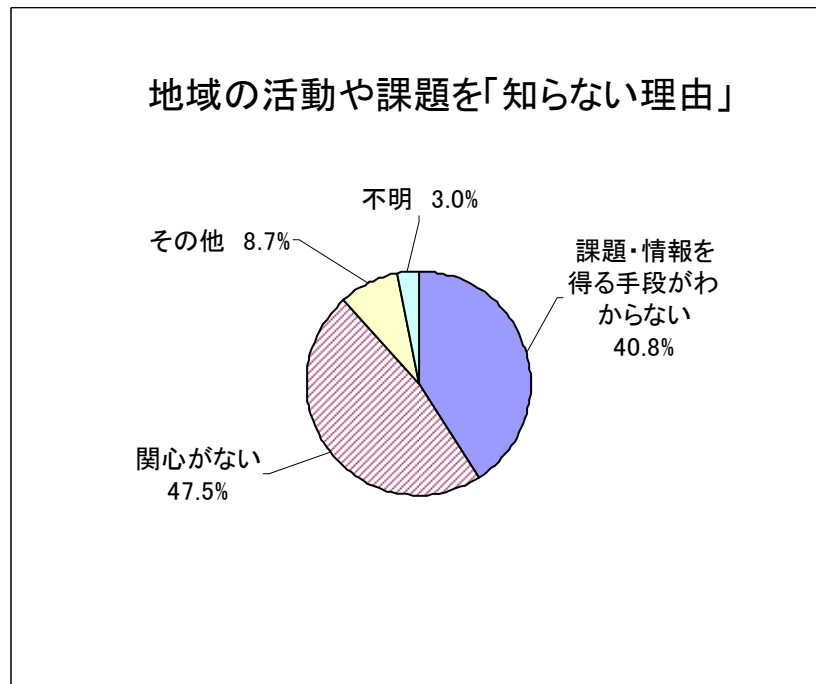
対象施策：地域情報・課題の相互理解の推進  
 成果指標：地域の現状を共有できた市民の割合  
 今回の調査結果：66.1%（「よく知っている」＋「多少は知っている」の割合）

- 全体では、「よく知っている」：6.6% [8.1%]、「多少は知っている」：59.5% [57.9%] で、合わせて66.1% [66.0%] が「知っている」と回答しているが、「よく知っている」の割合は低い。  
「知らない」と答えた人は、29.8% [31.2%] である。
- 男女別で見ると、「知っている」割合は男性：67.0% [67.7%]、女性：65.9% [64.5%] で、若干男性の方が高い数値を示している。また、このうち「よく知っている」の割合は、男性：9.4%、女性：4.2%である。
- 年代別に「知っている」割合を見ると、60歳代・70歳以上が平均を上回っているが、20～40歳代は1～2%台と特に低いのが目立つ。



問23 前問で「知らない」と答えた方に、知らない理由はなぜですか？

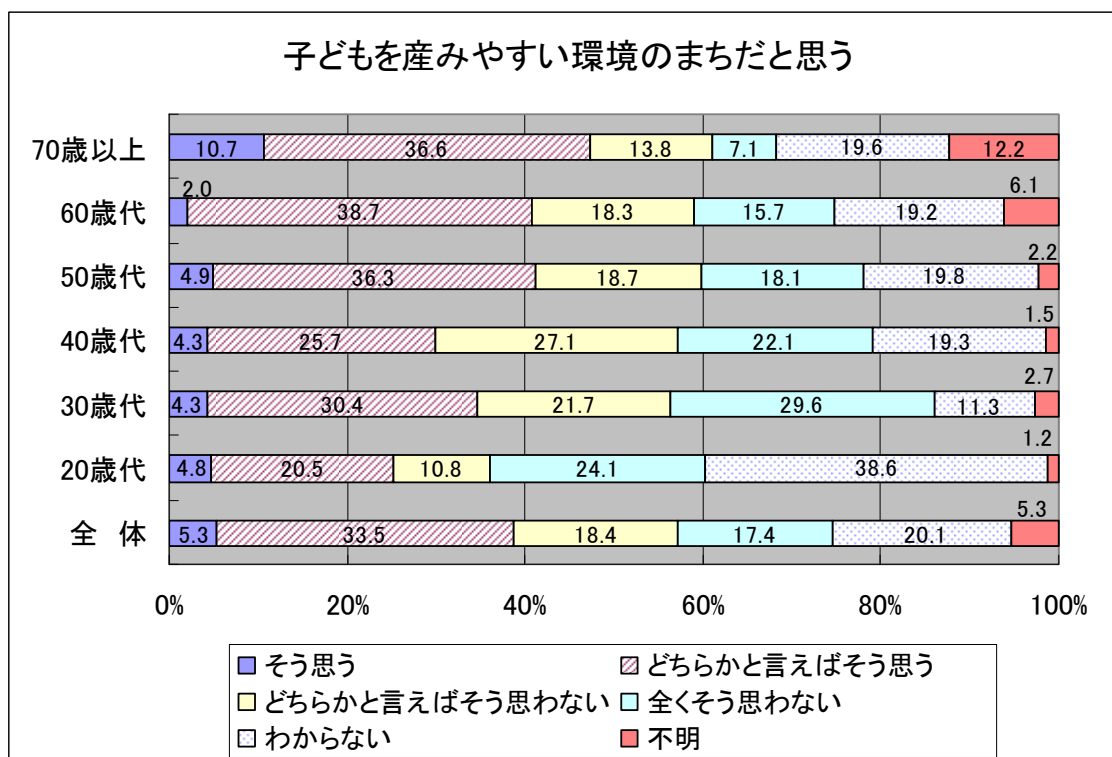
- 住んでいる地域で行なっている活動の内容や課題について、前問で「知らない」と答えた 299 人 [327 人] にその理由を質問したところ、全体では、「課題・情報を得る手段が分からない」：40.8% [45.6%]、「関心がない」：47.5% [43.4%] という結果だった。
- 知らない理由を年代別に見ると、「課題・情報を得る手段が分からない」と答えた人が、20歳代：43.1%、30歳代：47.5%、40歳代：43.1%という状況であった。また、「関心がない」については、全ての世代を通じての高い数値を示している。



問24 飯田市が、子どもを産みやすい環境（医療体制や支援サービスが充実など）のまちだと思いますか？

対象施策：子どもを産み育てやすい環境の充実  
 成果指標：子どもを産みやすい社会環境であると感じている対象者の割合  
 今回の調査結果：30.4%（20～49歳で「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 全体を見ると、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は38.8% [35.1%]、「どちらかと言えばそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた35.8% [43.6%]であり、「思う」が「思わない」を上回るほどに大きく改善している。  
 このうち、20～49歳を「子どもを産む対象者」年齢層と見なして、その回答率を成果指標と捉えると、今回の調査では、該当者338人、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」が103人で、割合は30.4% [26.5%]である。
- 産みやすいと思う人の割合を男女別で見ると、男性：39.9% [37.2%]に対して、女性：38.0% [33.5%]と、若干ながら女性の方が低くなっている。
- 産みやすいと思う人の割合を年代別で見ると、20歳代：25.3%・40歳代：30.0%と低いですが、30歳代は34.7%と平均を上回っている。また50歳代以上は4割を越えている状況である。



< 現在、18歳未満の子どもを育てている方への質問 >

問25 飯田市が、子育てしやすい環境（育児や保育など）のまちだと思いますか？

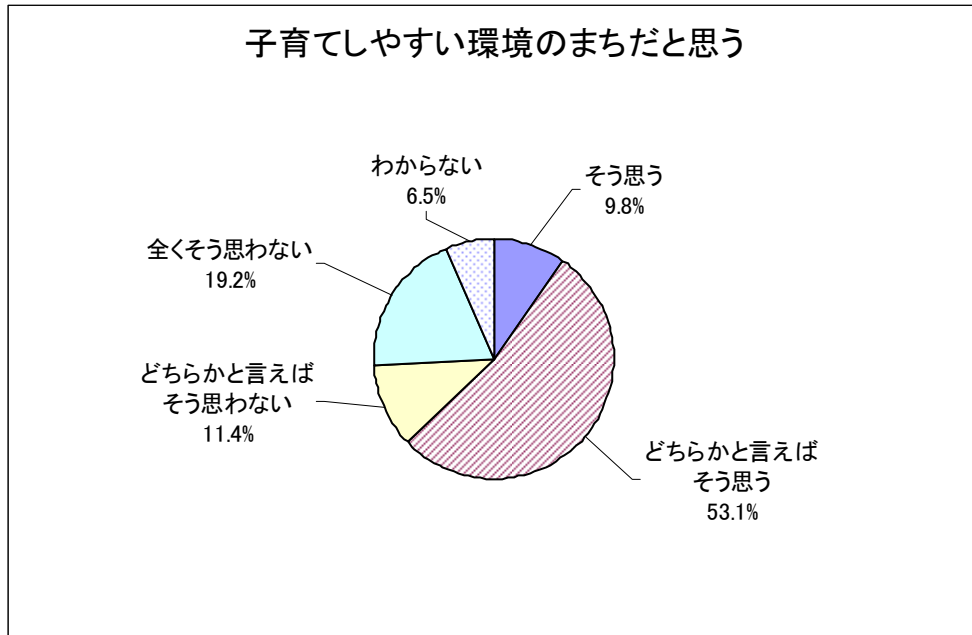
（※ 限定質問のため、有効回答記入のあった245人を対象とする）

対象施策：子どもを産み育てやすい環境の充実

成果指標：子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合

今回の調査結果：62.9%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」対象者の割合）

- 全体では、「そう思う」：9.8% [10.5%]、「どちらかと言えばそう思う」：53.8% [50.2%] で、「子育てしやすい環境のまち」と思っている人の割合は62.9% [60.7%] となった。
- 男女別の状況は、女性が「思う」：60.0% [61.0%]、「思わない」：30.4% [31.4%]、男性が「思う」：67.3% [60.8%]、「思わない」：30.6% [27.2%] となった。
- 該当者数にばらつきはあるが、年代別を見ると、「思う」が20歳代：60.0% [53.3%]、30歳代：59.7% [55.8%]、40歳代：59.1% [59.2%]、50歳代：67.7% [70.7%] となっており、一方の「思わない」は20歳代：26.7% [43.4%]、30歳代：28.4% [38.3%]、40歳代：36.4% [32.6%]、50歳代：32.3% [14.6%] といった状況となっている。特に20・30歳代での数値の改善が著しい状況である。



問26 どの程度子どもと話したり、一緒に食事をしたりしていますか？

（※ 限定質問のため、有効回答を対象とする）

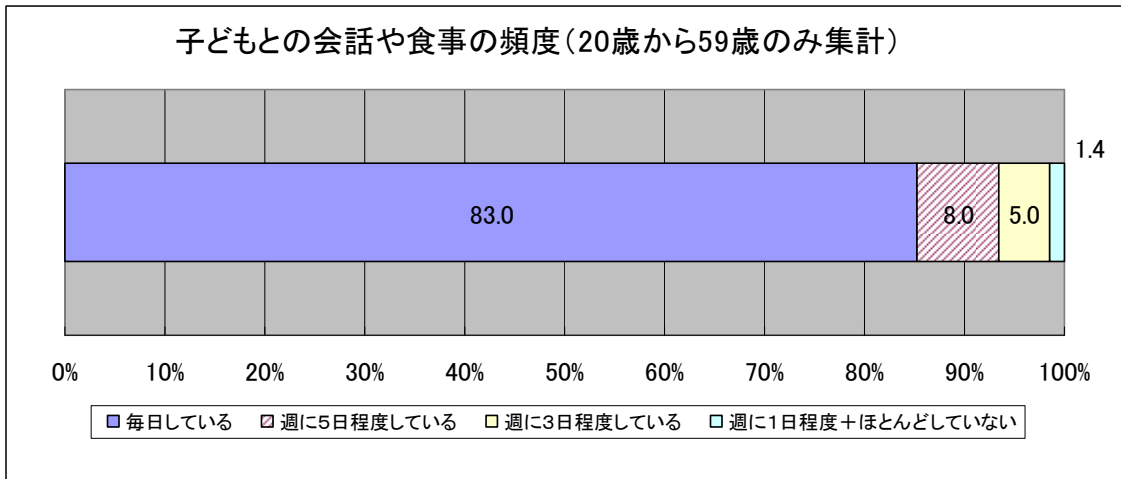
対象施策：家庭教育の充実

成果指標：子どもとコミュニケーションが取れている世帯の割合

今回の調査結果：96.0%（20～59歳までの有効回答者のうち「週3日程度」以上と答えた人の割合）

- 全体では278人から回答があったが、60歳以上の方48人が含まれている。そこで、成果指標としては、20～59歳までの有効回答者のうち「週3日程度」以上と答えた人の割合とした。今回の調査では200人中192人で、96.0% [97.7%] である。
- この結果から、多くの親が子どもと接する機会を持つように努めていることがうかがわれる。



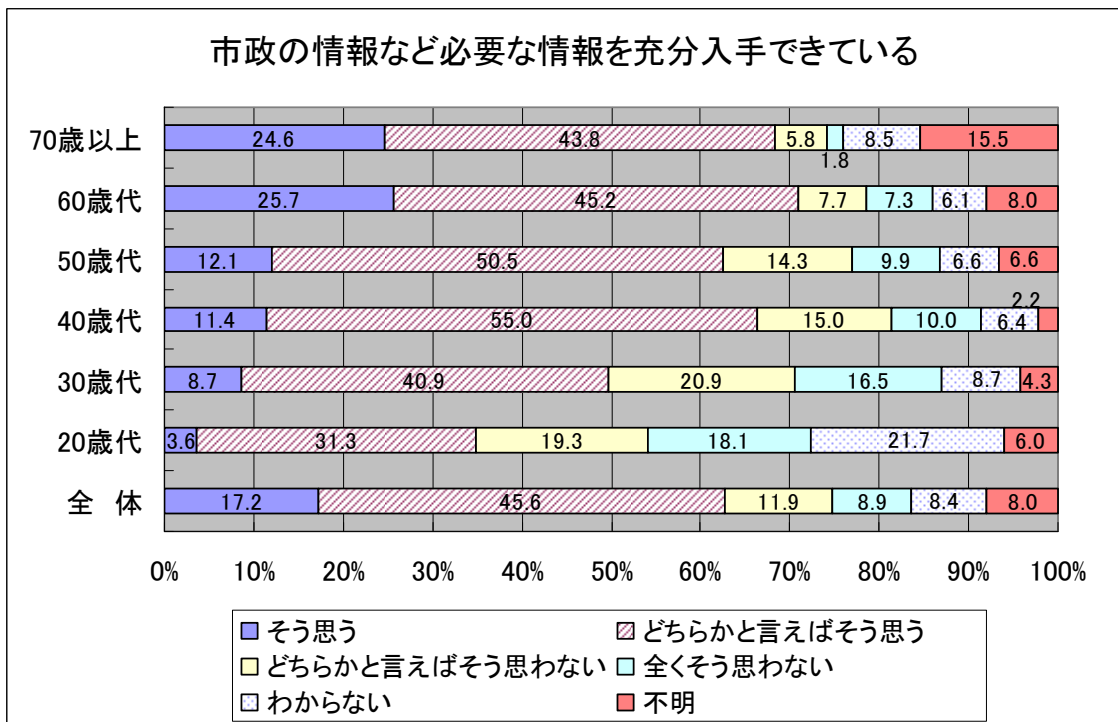


### ＜ 飯田市の政策や運営、職員について ＞

問27 市役所からのお知らせや市政の情報など、必要とする情報を充分入手できていると思いますか？

対象施策：情報共有の促進  
 成果指標：知りたい行政の情報が充分に入手できていると感じている市民の割合  
 今回の調査結果：62.8%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）

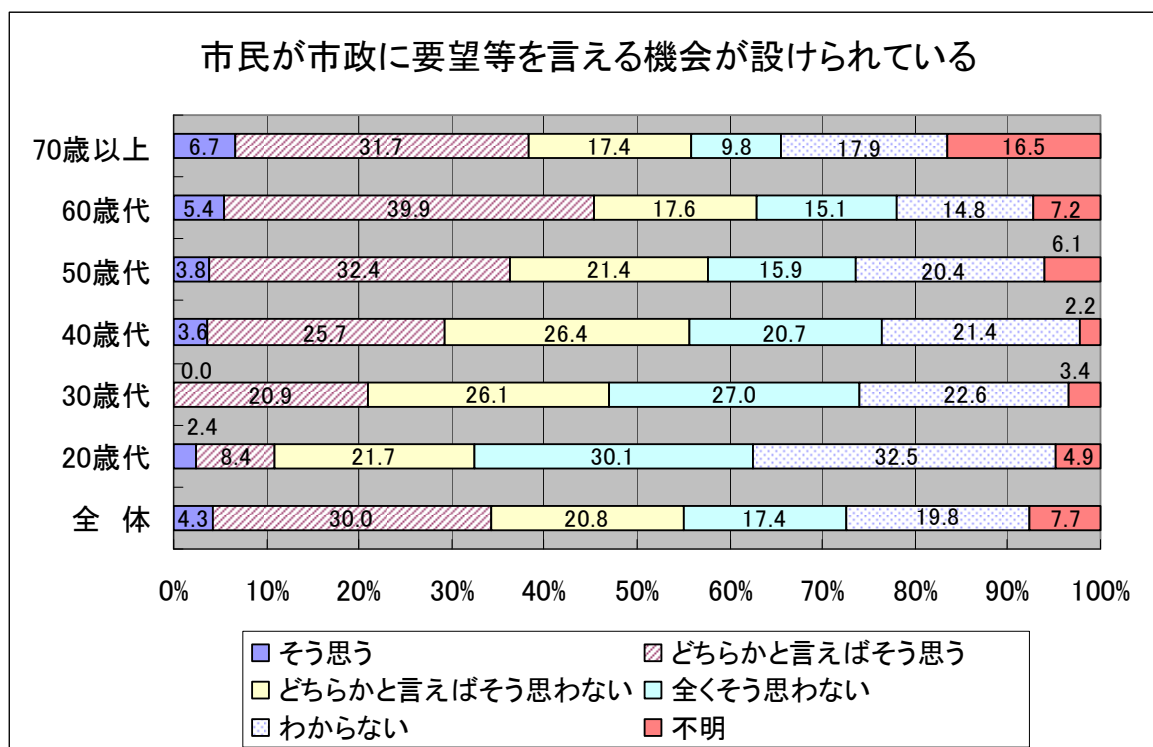
- 全体を見ると、「そう思う」:17.2% [17.2%]、「どちらかと言えばそう思う」:45.6% [46.1%] を合わせて 62.8% [63.3%] となり、ほぼ3人に2人は必要とする情報を入手できていると考えていることを示している。
- 入手できていると考えている人を男女別で見ると、男性：64.1% [59.2%]、女性：63.0% [66.5%] となっており、ほとんど差は見られない。
- 入手できていると考えている人を年代別で見ると、20歳代・30歳代が5割以下と低い数値となっている。



## 問 2 8 市民が市政について要望等を言える機会が設けられていると思いますか？

対象施策：情報共有の促進  
 成果指標：市民の意見が行政に反映されていると認識している市民の割合  
 今回の調査結果：34.3%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 全体では、「そう思う」：4.3% [5.7%] と「どちらかと言えばそう思う」：30.0% [26.5%] を合わせて 34.3% [32.2%] となり、2.1 ポイント改善しているが、「どちらかと言えばそう思わない」：20.8% [24.3%] と「全くそう思わない」：17.4% [16.7%] の計 38.2% [41.0%] には及ばない。市政について要望等をいえる機会が設けられていないと思っている市民の方がまだ多いという結果である。
- 男女別の状況を見ると、「設けられていると思っている」割合は男性：38.8% [33.5%]、女性：30.8% [31.1%] で男性の方が高い。一方、「設けられていると思っていない」割合は男性：38.3% [47.7%]、女性：38.1% [35.9%] で、男女同程度である。
- 「設けられていると思っている」割合を年代別に見ると、50 歳代～70 歳以上は平均値を上回っているが、40 歳代では 29.3%、30 歳代では 20.9%、20 歳代では 10.8% という低い数値を示した。

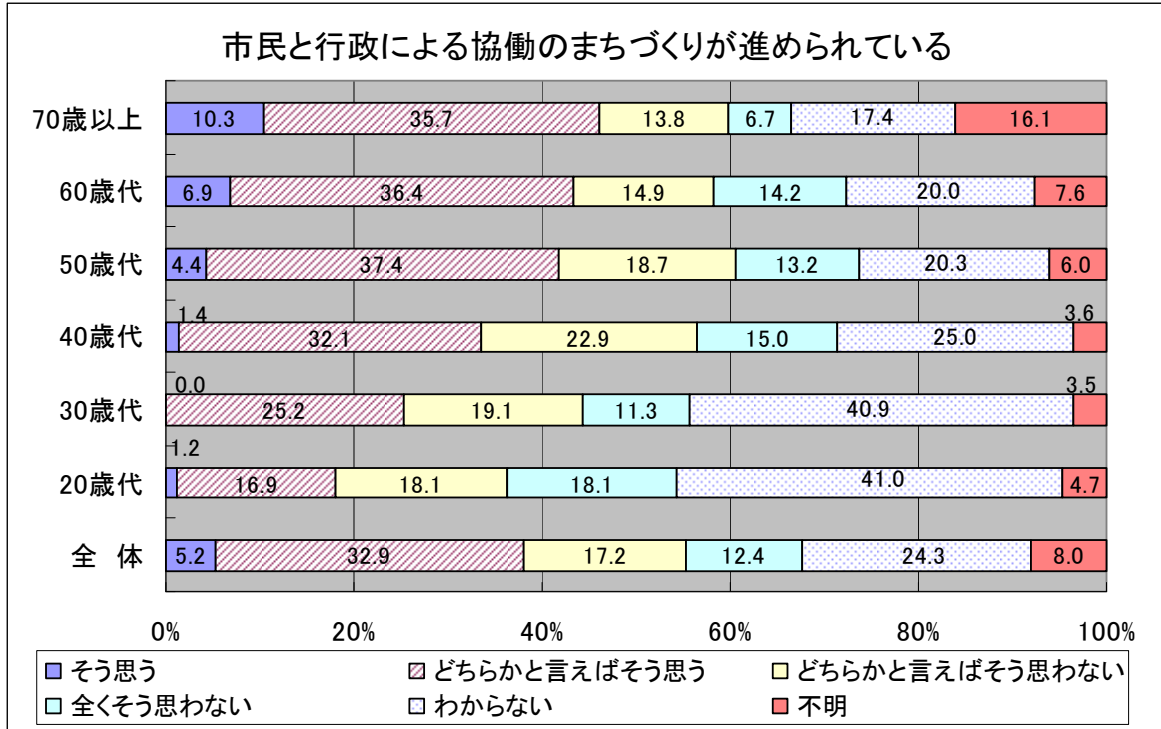


## 問 2 9 市民と行政による協働のまちづくりが進められていると思いますか？

対象施策：市民参画による協働の促進  
 成果指標：協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合  
 今回の調査結果：38.1%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）

- 「市民と行政による協働」という市政運営の基本的な概念について質問してみたが、全体では、「進められていると思う」：38.1% [36.9%]、「進められていると思わない」：29.6% [32.7%] で、「思う」割合の方が高かった。また、「わからな

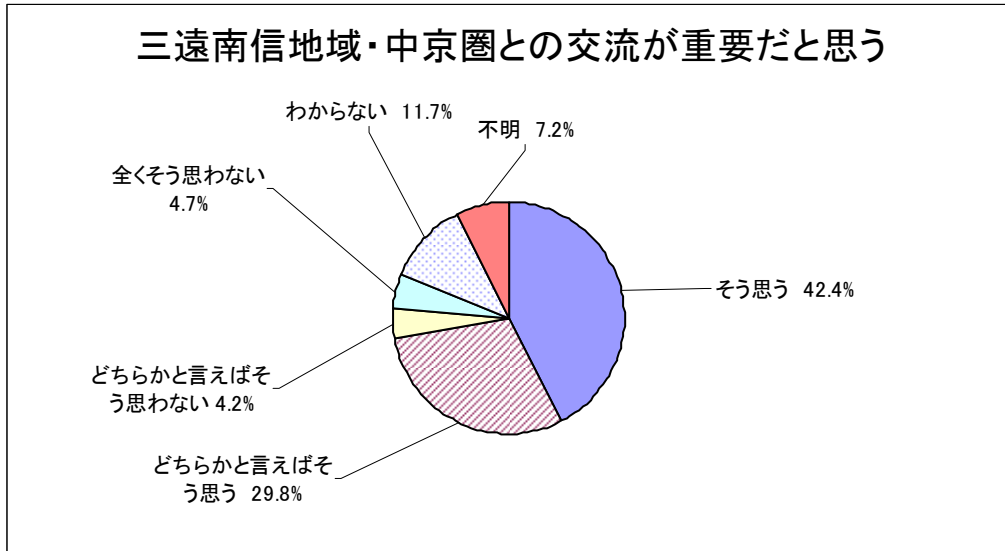
- 進められていると思う人の割合を男女別で見ると、男性：41.5% [39.7%]、女性：36.0% [34.6%] で、男性の方が5ポイント程度上回っている。
- 進められていると思う人の割合を年代別で見ると20歳代・30歳代が特に低い。これと関連があると思われるが、「わからない」が20歳代：41.0%、30歳代：40.9%と高い数値を示している。



**問30 飯田市にとって三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思いますか？**

対象施策：三遠南信・中京圏の連携推進  
 成果指標：三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合  
 今回の調査結果：72.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）

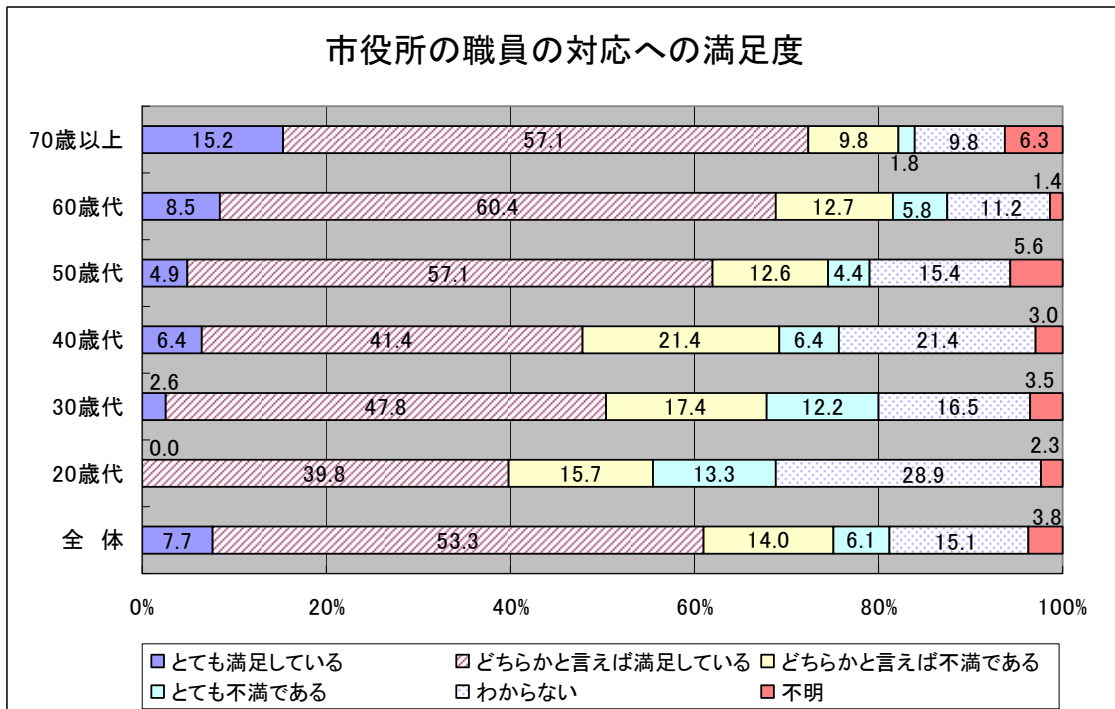
- 全体を見ると、「そう思う」：42.4% [43.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：29.8% [30.9%] で、合わせて 72.2% [74.5%] となり、ほぼ4人に3人は重要とされていることを示している。
- 重要とと思っている人を男女別で見ると、男性：77.3% [80.1%]、女性：68.6% [70.3%] となっている。
- 重要とと思っている人の割合を年代別で見ると、最も低い20～40歳代では7割を切っているが、それ以外の各年代では7割を超えており、重要とされていることがうかがわれる。



### 問3 1 市役所の職員の対応に満足していますか？

対象施策：良質な行政サービスの提供  
 成果指標：市役所が提供するサービスに満足している市民の割合  
 今回の調査結果：61.0%（「とても満足している」+「どちらかと言えば満足している」の割合）

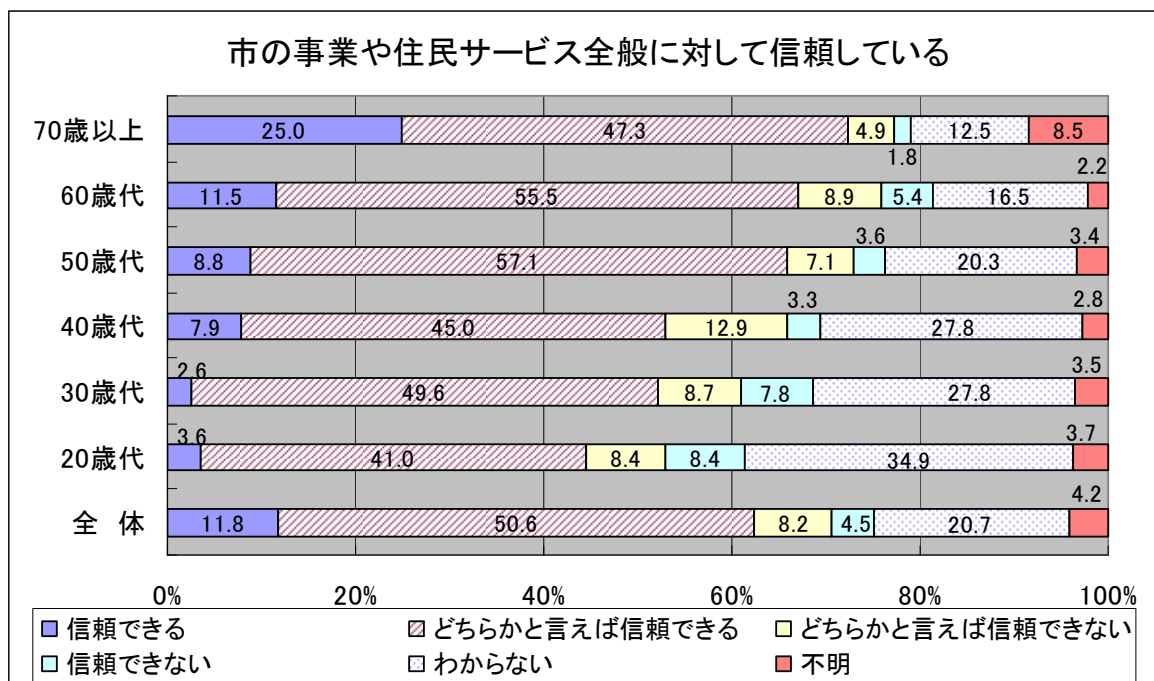
- 全体では、「とても満足している」：7.7% [10.1%]、「どちらかと言えば満足している」：53.3% [50.8%] で、合わせて61.0% [60.9%] が「満足している」と回答している。これは前回とほぼ同程度の結果である。  
 一方、「どちらかと言えば不満である」：14.0% [14.5%]、「とても不満である」：6.1% [6.3%]と、約2割の市民が市役所の職員の対応について不満を持っている。またこの状況は、男女ともほぼ同様である。
- 「満足」を感じている人の割合を年代別で見ると、30歳代と40歳代で逆転が見られるものの、若い世代ほど割合が低くなっており、20歳代では4割を、40歳代では5割を下回っている。



### 問3 2 市で行っている事業や住民サービス全般に対して信頼していますか？

対象施策：評価や監査による信頼の確保  
 成果指標：市役所を信頼できていると感じている市民の割合  
 今回の調査結果：62.4%（「信頼できる」＋「どちらかと言えば信頼できる」の割合）

- 全体では、「信頼できる」：11.8% [11.8%]、「どちらかと言えば信頼できる」：50.6% [48.4%] で、合わせて 62.4% [60.2%] が「信頼できる」と回答している。  
 一方、「どちらかと言えば信頼できない」：8.2% [9.4%]、「信頼できない」：4.5% [4.4%] で、12.7% [13.8%]の市民が「信頼できない」としている。また、「わからない」が 20.7% [23.1%] と、高い数値を示している。
- 信頼している人の割合を男女別で見ると、男性：62.8% [60.8%]、女性：61.8% [60.0%] で、ほぼ同程度の数値を示した。
- 信頼している人の割合を年代別で見ると、前問の「職員の対応」と同様に若い世代ほど割合が低くなっていることが分かる。



### 問3 3 これからも飯田市に住み続けたいと思いますか？

今回の調査結果：82.1%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）  
 18年4月調査結果：82.8%

- 全体では、「そう思う」：54.4% [55.7%]、「どちらかと言えばそう思う」：27.7% [25.4%] で、飯田市に住み続けたいと思う市民の割合は、82.1% [81.1%] と高い割合を示している。  
 一方、「どちらかと言えばそう思わない」：5.0% [4.3%]、「全くそう思わない」：2.7% [4.5%] で、住み続けたいと思わない市民の割合は 7.7% [8.8%] であった。

- 住み続けたいと思う市民の割合を、年代別に見ると、20歳代：69.8%、30歳代：80.9%、40歳代：75.7%と平均を下回ったが、一方50歳以上の年代では85%前後の高い数値だった。

